

良好ナル效果ヲ滅却スルヲ欲セサルヲ以テ佛伊間ニ協定ノ確實性ナキ限リ羅馬ニハ行カスト言ヒ居リ同外相ハ過般ノ理事會ニ於テ「アロイジ」ニ對シ伊國カ「ユーゴースラビア」ノ統一尊重ノ宣言ヲ爲サンコトヲ希望シ「ア」ハ之ニ對シ右ハ可能カト思フモ「ムツソリーニ」カ最近ハ以前ヨリモ幾分氣乘薄ナリト言ヒシ由ニテ佛國政府側ニテハ伊國洪牙利間ニ最近秘密協定出來シニアラスヤヲ疑ヒ居レリ

(三)一般軍縮問題ニ付十三日在佛英國大使「ラバール」外相ヲ訪問シ佛國カ英國政府最終覺書案ノ基礎ニテ軍縮條約締結ノ意嚮無キヤヲ探リタルカ之ニ對シ同外相ハ(一)今軍縮一般條約ニ署名スル政府ハ直ニ倒サルヘシ(二)佛國政府ハ飽迄四月十七日附覺書ノ趣旨ヲ固持スルモノニハ非サルモ假令軍縮條約交渉ニ先チ佛カ「ザール」問題ニ付示シタル誠意

ニ應ヘ同地域ノ人民投票ノ機會ニ其ノ善意ヲ示シ投票ノ結果ヲ實行シ東歐「パクト」ニ對シ好意的態度ヲ示シ奧太利ノ獨立尊重ノ聲明ヲ爲サンコトヲ希望スト述ヘタル由ナリ

(三)海軍軍縮ニ關シ「ピエトリ」海相ハ日本ノ華府條約廢棄トハ獨立ニ佛國モ同條約ニ對シ満足シ居ラサル趣旨ヲ適當ナル形式ニテ公表セサレハ將來其ノ獨自ノ主張ヲ爲スニ付立場弱カルヘシトテ之ヲ考慮シ居ルヤノ趣ナリ

(四)東歐「パクト」案ニ關スル佛、蘇「プロトコール」ハ十一月二十六日巴里ニテ「バラフェ」サレ十二月五日壽府ニテ署名セラレタル由ナリ(往電第五四七號及特情第五三號御參照)

在歐各大使、壽府、知惠古、波蘭、羅馬尼、「ラトビヤ」ヘ暗送セリ

### 付 東欧ロカルノ構想を中心とするソ連の動向

98 昭和9年3月24日

在ルーマニア藤田(栄介)公使より  
広田外務大臣宛(電報)

小協商諸國のソ連邦承認問題等に関するル

マニア外相の談話について

ブカレスト 3月24日後発  
本省 3月25日後着

第一七號

本使二十三日「テイテユレスコ」ヲ訪問各種ノ問題ニ付意見ヲ叩キタル處其ノ談話ノ要旨左ノ通ナリ

一、近頃頻リニ小協商ノ蘇聯邦承認問題カ傳ヘラレ居レル處匈牙利及勃利カ伊國ノ差金ニ依リ同聯邦ヲ承認シタル爲小協商三國ノミ取殘サレタル形トナリ居ル關係上「ベネシユ」ハ速ニ小協商トシテ右承認ヲ實行スルコトヲ希望シ居レリ「ユーゴスラビヤ」モ大體之ニ賛成シ居レルカ羅馬尼ハ特別ノ立場ニ在ル爲慎重ノ考慮ヲ加ヘツツアリシカ最近蘇聯邦トノ關係著シク緩和シタルヲ以テ自分トシテモ大體承認ノ時期ニ達セリト思考シ居レリ唯小協

商ト蘇聯邦トハオ互ニ代表者ヲ交換シ居ラサル爲如何ナル方法ニ依リテ右交渉ヲ開始スルカヲ考ヘル必要アル上目下小協商政府間ニ本件ニ關シ具體的ニ話合カ進ンテ居ル譯ニモ非サルヲ以テ其ノ時期ノ如キハ素ヨリ確言スルコトヲ得ス

二、日本及獨逸ノ聯盟脫退ニ對スル對應策トシテ常ニ巧妙ナル外交政策ヲ編出ス「ソヴイエット」ノ首腦者カ聯盟加入ヲ考慮シ居ルコト(若ハ考慮シ居ルカ如ク見セ掛ケ居ルコト)ハ誠ニ有リソウナ事ナルカ「ソヴイエット」ノ從來ノ主張ト聯盟規約ノ精神トハ根本的ニ相容レサルモノアルカ故ニ「ソヴイエット」カ聯盟ニ加入スル時ハ「ソ」カ「ソ」テ無クナル時カ聯盟カ聯盟テ無クナル時カテアルコト丈ケハ確カナリ本件ハ實現不可能ニ非サレト前途頗ル遠遠ナル問題ナリ

三、伊歐匈三國間ノ羅馬協定ハ小協商ト「バルカン、パクト」トノ兩者ニ對シ同時ニ一撃ヲ加ヘントスル「ムソリーニ」ノ意圖ニ出テタルモノナル事ハ餘リニモ明瞭ナル處其ノ協定ノ内容ニハ何等目新シキモノ無ク經濟的議定書モ極メテ漠然タルモノナリ昨日自分ヲ來訪シ羅馬尼ノ右議定

書ニ加入スル事ヲ懲慚シタル在當地伊國公使ニ對シ羅馬  
 尼カ加入ヲ考慮スヘキ條約カ未タ出來テ居ラサルニ非ス  
 ヤト答ヘタル次第ナリ孰レニセヨ羅馬協定ニ依リテ損ヲ  
 スルモノハ匈牙利ナリ人口六百萬ノ匈牙利カ人口四千二  
 百萬ノ小協商ニ對シ飽迄楯ヲ衝カントスル事ハ誠ニ無謀  
 ナル話ニテ同國ノ指導者ハ伊國ノ力ニ對シ錯覺ヲ有スル  
 ト同時ニ佛國ノ存在ヲ忘レタルカノ感有リ

四、滿洲ノ承認ノ氣運動キ居ル事ハ誠ニ結構ナリ聯盟ノ決議  
 サヘ撤回セラルレハ羅馬尼モ承認ニ關シ他國ニ遅ルルモ  
 ノニ非ス滿洲問題ノ解決ヲ俟テ日本モ聯盟ニ復歸スル事  
 ト信スルカ自分モ之ヲ希望ニ堪ヘス

本電在歐各大使及在波蘭、「チエコ」、奧太利、希臘各公  
 使ニ暗送セリ

99

昭和9年3月26日

広田外務大臣より  
 在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代  
 理兼総領事宛(電報)

ソ連の連盟加入問題に關し連盟首脳部等より  
 情報収集方訓令

本省 3月26日後5時30分発

第ナリヤト尋ネタル處「レ」ハ「ポール、ボンクール」外  
 相時代壽府ニ於テ蘇聯邦代表者ヨリ概括的ニ加入ノ相談ヲ  
 受ケタルコトアリ同外相ノミナラス他ノ數ヶ國代表者モ亦  
 同時ニ同様ノ相談ヲ受ケタル處當時聯盟側ニ於テ  
 ハ蘇ノ加入問題ニ關シ特別ノ異議ヲ有セザリシモ豫備的交  
 渉ノ範圍ニ止マリ蘇側ニ於テモ夫レ程熱心ニ話ヲ進ムル模  
 様無ク其ノ儘トナリ其ノ後佛國政府トシテハ公ニモ又私ニ  
 モ蘇側ヨリ申込ニ接セス約二週間前「バルト」外相初メ  
 テ蘇聯邦大使ヲ引見ノ際ニモ同大使ヨリ本問題ニ關シ言及  
 スルトコロナカリシ由傳聞セリ但シ蘇聯邦ノ加入ハ佛國側  
 ヨリ見テ主義上ノ問題トシテ別段反對スヘキ理由ナク殊ニ  
 獨佛關係ヨリ言ヘハ寧ロ之ヲ歡迎スヘキニ似タリト述ヘタ  
 リ依テ本使ハ試ニ聯盟力全ク國家建立ノ基礎ヲ異ニスル蘇  
 聯邦ノ加入ヲ受諾スルコトアリトシ日本ハ既ニ聯盟國ニ非  
 サル以上之カ可否ヲ論スル立場ニ非サルハ勿論ナルモ右聯  
 盟ヲ目シテ蘇側カ日本ニ對シ對抗手段トシテ聯盟ヲ利用セ  
 ントスルモノナリトノ感想ヲ抱クコト有リ得ヘント述ヘタ  
 ル所「レ」ハ蘇聯邦カ日本ニ對シ侵略的意圖ヲ有ストセハ  
 其ノ聯盟加入ハ自縛自縛トナリ却テ不利ナルヘキニ付若シ

第五〇號

「ソヴィエト」聯邦ノ聯盟加入問題ニ關シテハ貴官ハ適宜  
 聯盟主腦部其ノ他ニ就キ各種情報御入手ノ上隨時御電報相  
 成度

本電ノ「聯盟主腦部」ヲ「責任國官邊」ト訂正ノ上本大臣  
 ノ訓令トシテ在英、米、佛、獨、伊、白、露各大使ニ轉電  
 シ參考トシテ在歐各公使ニ暗送アリ度

100

昭和9年3月29日

在仏國佐藤大使より  
 広田外務大臣宛(電報)

ソ連から仏国当局に対し連盟加入に關する正  
 式申入れの有無につき仏国外務次官に確認に  
 ついて

パリ 3月29日後発

本省 3月30日前着

第一九四號

往電第一六九號ニ關シ

二十八日外務次官「レジエ」ニ面會ノ序ヲ以テ佛國政府ハ  
 蘇聯邦ヨリ聯盟加入ニ關シ何等公ノ申込ニテモ受理セル次

(欄外記入)

蘇聯邦カ日本トノ關係ニ於テ聯盟加入ヲ利益ト考フルトセ  
 ハ其ハ蘇カ侵略ヲ受クル場合聯盟ノ援助ヲ得ントスルモノ  
 ト解スル外ナク寧ロ蘇側ノ弱身ヲ現實ニ物語ルモノナルヘ  
 シト云ヘリ

以上ハ冒頭往電ノ報道ト可ナリ趣ヲ異ニスルモ佛国外務當  
 局者ノ言トシテ何等御參考ニ供ス

露、壽府へ轉電シ在歐各大使、米へ暗送セリ

(欄外記入)

日本ノ立場ト両立セサルコトトナル

聯盟ガ純然タル欧州政局ニ利用セラルル結果

101

昭和9年3月30日

在ジュネーヴ横山国際会議事務局長代理  
 兼総領事より  
 広田外務大臣宛(電報)

新聞報道によるソ連の連盟加入条件について

ジュネーヴ 3月30日後発

本省 3月31日前着

第七二號

蘇聯邦ノ聯盟加入問題ニ關シ聯盟宛電報内部ノ意見ヲ綜合

スルニ大要左ノ如シ

一、本件ハ二三ヶ月前ヨリ一般ニ問題トサレ居ルモ事務局ニ於テハ未タ非公式ノ話スヲ聞カス從テ今日迄何等纏リタル研究ヲ遂ケ居ラサルモ愈々加入ノ場合其ノ形式ニ付墨西哥、土耳其等ノ先例ヲ參考トスヘク豫メ主要各國間ニ協議ヲ行ヒタル上總會ニ於テ加盟招請ノ決議ヲ爲スモノト思ハル又同國ニ對シテハ其ノ國力及四圍ノ情勢ニ鑑ミ當然常任理事國ノ地位ヲ認ムヘキコト殆ト疑無キカ如シ

二、新聞報道ニ基キ蘇側ノ加入條件ヲ吟味センニ  
(イ)聯盟國全部ノ同政府承認ヲ要求スルハ聯盟各國相互ノ間ニ外交關係未開始ノ國アルコト(現ニ「チエツコスロバキア」ハ「フィンランド」政府ヲ承認シ居ラサル趣)及總會ノ前記決議ハ承認ヲ欲セサル諸國カ「アブステーン」スルモ有效ニ成立シ得ルコトニ鑑ミ同政府トシテハ加盟ノ期ヲ捉ヘテ全部ノ政府承認ヲ得ントスルモノナルモ和蘭白耳義及小協商諸國ハ佛國ノ斡旋アラハ或ハ近ク承認ヲ斷行スルヤモ知レサルカ瑞西ハ從來ノ行懸モアル爲假令社會黨カ勢力ヲ増シタル今日ト雖容易ニ之ヲ決セサルヘシ依テ蘇政府カ此ノ條件ヲ固

執セハ加盟實現ハ遅ルヘシ

(ロ)不戰條約ト聯盟規約トノ調和問題ハ特別委員會ノ事業進捗セス次回總會迄ニ解決ノ見込立チ難ク殊ニ蘇政府ハ之ニ關聯シ規約改正ヲ希望シ居リ他方伊國改造論トノ關係モアリ此ノ點解決迄ニハ相當ノ時日ヲ要スヘシ  
(ハ)人種平等權ノ確認ハ巴里平和會議ニ於ケル日本ノ經驗ニ徴スルモ難問題ナルコト明瞭ナルカ「ナチ」ノ猶太人排斥ニ對スル不服ノ表明手段トシテ蘇政府カ一應之カ再檢討ヲ要求スヘキハ尤モト思ハル同政府ノ聯盟接近カ一方東亞ニ於ケル日本ノ進出ニ對抗スルト同時ニ他方西境ニ於ケル獨逸ノ發展ニ備フルノ目的ニ出テ居ルハ當然ナルヘシ

(ニ)不侵略條約ノ世界化ハ同政府ノ素ヨリ希望スル處ナルモ此ノ點ハ侵略者ノ定義ニ關スル倫敦條約ノ一般化ノ問題ト共ニ英伊之ニ反對スヘク佛ノ態度モ判明セサルヲ以テ右ハ非常ナル難件ナリ

三、各國極左派諸新聞ハ何レモ蘇聯邦ノ聯盟加入ヲ歡迎シ急速實現ノ可能ナルヲ吹聴シ五月理事會迄ニハ解決ノ見込アル如ク宣傳シ居ルモ同政府カ前記諸條件ヲ眞面目ニ主

(欄外記入)

張スルモノトセハ當分解決ノ見込無シ尤モ四月十日ノ軍縮幹部會ニ際シ各國主要代表者來壽セハ「リトビノフ」モ來會スヘク果シテ然ラハ自然本件ニ關シテモ話合行ハレ其ノ結果如何ナル局面變化ヲ見ルヤ何人モ豫測シ得サル處ナリ  
在歐各大使ヘ暗送セリ

(欄外記入)

露國引入レノ各國ノ策動餘程進ミ居ルニアラズヤ

102 昭和9年4月8日

在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の連盟加入問題につきソコリニコフ外務  
人民委員代理より事情聴取について

モスクワ 4月8日後発  
本省 4月9日前着

第一六九號(極秘)

壽府(宛)貴電第五〇號ニ關シ

過般「ブリット」大使ハ本使トノ會談ニ於テ米蘇カ國際聯

盟加入問題ニ付協議中ナリトノ新聞報道ヲ強ク打消シタルモ蘇聯カ聯盟加入ニ付或國例ヘハ佛蘭西ヨリ勸誘ヲ受ケ居ルコトハ有り得ヘキコトナリト考フル旨述ヘタルモ「ソコロニコフ」ハ四日本使及館員ヲ招宴セル際本使トノ會話中蘇聯トシテハ常ニ平和ヲ愛好スルモノナルニ依リ若シ蘇聯ノ聯盟加入カ戰爭ノ危機ヲ遠サケ世界平和ノ維持ニ貢獻スル處有リトセハ假令右カ近キ將來ノミニ於テ又道德的效果ニ過キサルニセヨ聯盟加入ニ付考慮スルノ價值有ルヲ認メ居ル次第ニシテ右ノ趣旨ハ最近蘇側要路者ノ爲セル聲明中ニ包含セラレ居レリト説キ本使ノ問ニ對シ聯盟加入問題ニ付蘇聯ヨリ自ラ進ンテ何國ヘモ申出テヲ爲シタルコト無キモ同問題ノ討議ニ應スルノ用意無キニアラス從テ近キ將來ニ於テ蘇聯ノ聯盟加入實現ノ可能性アルヤ否ヤハ四圍ノ事情如何ニ依リ左右セラルルコト大ナリト謂ハサルヲ得スト  
答ヘタリ

右要路者ノ聲明トハ客年十二月二十九日ノ蘇聯中執委員會會議ニ於テ「モロトフ」カ「國際聯盟カ戰爭ヲ希望スルモノニ對シ或ル牽制的役割ヲ演スルモノナル事ハ確乎タル事實トシテ之ヲ認メサルヘカラス」ト述ヘタル事(客年往電

第六五四號)其ノ翌三十日ノ同會議ニ於テ「リトヴィノフ」カ「吾人ハ決シテ組織セラレタル國際協力ヲ拒ムモノニ非ス吾人ハ空論家ニ非サルカ故ニ現存シ又ハ將來形成セララヘキ國際結合或ハ團體ニシテ平和ニ貢獻スルモノト看做シ得ルモノ有ル時ハ之カ利用ニ吝ナルモノニ非スト述ヘタル事(客年往電第六六一號)並ニ本年一月四日當地主要新聞ニ發表セラレタル「スターリン」ト「紐育タイムズ」特派員「ジュランテイ」トノ會談中(舊臘二十五日)「ス」カ「聯盟ハ或ル程度ニ於テ戰爭行爲ノ發生ヲ抑制シ又ハ防止スルノ力タリ得ルモノナリ

若シ聯盟ニシテ假令僅少ナリトモ戰爭ヲ困難ナラシメ或程度ニ於テ平和ヲ維持スルコトニ貢獻シ得ルニ於テハ吾人ハ聯盟ニ反對スルモノニアラス云々」ト應答セルコト(往電第二號)等ヲ指スモノト思ハルル處斯ノ如ク最近蘇聯カ曩ニ資本主義國ノ國際的政治組織ナリトシテ敵視セル聯盟ニ著シク接近ノ態度ヲ示スニ至レルハ一面ニ於テ國際政局ノ不安増大、世界經濟恐慌ノ繼續銳化、蘇聯ノ國內建設事業ノ進歩及蘇聯ノ平和愛好政策ノ成功等ニ依リ蘇聯ノ國際的地位カ漸次向上シ來リ曩ニ英佛ノ反蘇經濟的壓迫カ何レモ

度ヲ變更スルニ至レルモノト認ム可キ處本電前段「ブリツト」大使及「ソコリニコフ」ノ所言モ有リ旁佛國側カ否認シ居ルニセヨ蘇聯トシテハ或ハ佛ヨリノ勸誘有リタルヲ利用シ聯盟加入問題ニ關シ既ニ同國ト協議ヲ開始シ乃至ハ之カ開始方ニ付考慮シ居ルニ非サヤトモ觀測セラル蘇聯ノ對聯盟態度ニ關スル動向ニ付更ニ留意探究ノ上報告スヘキモ右不取敢  
在歐各大公使、米、壽府へ暗送セリ

103 昭和9年4月18日 在チエッコ・スロヴァキア堀田公使より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の連盟加入は早晚実現する見込みとのべ  
ネシュ外相の内話について

ブラハ 4月18日後発  
本省 4月19日前着

第一二號

十七日「ベネシュ」外相ト會談ノ機會アリタルニ付蘇聯邦ノ聯盟加入問題ニ付質問シタル處大要左ノ趣旨ヲ内話セリ  
聯盟加入ニ關スル蘇聯邦今回ノ申出ハ相當誠意アルモノト

蘇聯ノ反撥ニ依リ解消セラレ又米國トノ國交恢復モ實現シ資本主義諸國ノ反蘇經濟「ブロック」ニ對スル蘇聯ノ關心ハ著シク減少セラレタルト共ニ他面ニ於テ理論上「スターリン」ノ所謂一國社會主義ナルモノハ世界革命ナクトモ蘇聯一國ニテ社會主義ノ建設可能ナリトナスモノニシテ

4) 尠クトモ或期間ハ社會主義國ト資本主義國トカ國際社會内ニ於テ併立シ共立シ得ルモノナリトノ觀念ノ上ニ立チ蘇聯トシテハ其ノ目的達成ノ爲資本主義國トノ友好關係ヲ維持ス可キナリトノ建前ヲ取り又實際上蘇聯トシテ既ニ或程度迄社會主義經濟建設ノ成果ヲ收メタリトスルモ尙今後相當年間ハ資本主義經濟ヨリノ影響ニ俟ツ可キ處大ナルニ依リ各國トノ平和政策ヲ強調實行シ通商貿易ノ増進ニ努メサルヲ得サル立場ニ在ル等ノ事情有ルカ上ニ近時對外國係ニ於テ蘇聯カ危懼ノ念ヲ抱キ居レルハ日獨殊ニ日本ノ對支態度ナルカ蘇聯トシテハ聯盟トノ接近乃至之ニ加入スル事ニ依リ其ノ防禦的地位ヲ強化シ日獨ヲ牽制シ得ルモノト認メ居レルニ依ルモノト推斷セサルヲ得サルカ如ク從テ蘇聯ハ「ソコリニコフ」カ嘗テ本使(ニ)語レルカ如ク本來聯盟ヲ嫌フモノナルモ今ヤ國策遂行上ノ實地的見地ヨリ對聯盟態

認メラルルヲ以テ聯盟側ニ於テモ眞面目ニ考慮ヲ加ヘ居リ大勢ハ加入ニ對シ有利ニ動キ居リテ恐ラク早晚實現ヲ見ルニ至ルヘシト觀測セラル蘇聯邦從來ノ行動ニ徴スルニ何時如何ナル方向ニ政策ヲ急變スルヤモ計リ難ク從テ先方ニ於テ熱心ニ希望シ居ル此ノ機會ヲ捉ヘ聯盟内ニ引込ムコトハ單ニ聯盟ノ利益ナルノミナラス歐洲平和ノ見地ヨリスルモ相當ノ利益アルヘシ小協商三國トシテハ蘇聯邦ト侵略者定義條約ヲ締結シ居ル程ニテ素ヨリ其ノ聯盟加入ニ異議アル筈無シ唯白耳義、和蘭等蘇聯邦不承認ノ政策ヲ固持シ居ル國ニ對シテハ稍困難アルモ是等ノ國ニ於テ特別ニ蘇聯邦正式承認ノ外交上ノ手續ヲ執ルコトヲ必要トセス單ニ蘇聯邦ノ聯盟加入ニ同意スルコトニ依テ自然ニ正式承認ノ效果ヲ生スルモノトスル解釋ヲ執レハ此ノ困難モ消滅スヘシト考フ然シスル案ニ對シ是等ノ國ニ於テ満足ヲ表スヘキカ又蘇聯邦側ニ於テ體面問題ヲ持出スカ如キコト無カルヘキカ其ノ邊ノ事情ハ未タ判明セス

尙同外相ハ小協商ノ蘇聯邦承認問題ニ關シ原則トシテハ正式承認ニ決定シ居ルモ羅馬尼政府ニ於テ「ベツサラビア」問題等種々複雑ナル關係ヲ有シ之カ調整ノ爲蘇聯邦トノ間

ニ商議ヲ必要トスル爲其ノ實行遲延セラレ居ル次第ナリト  
説明セリ

在歐各大使、羅馬尼、波蘭、澳、壽府へ暗送セリ

104 昭和9年5月26日 在仏国佐藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

欧州諸国間の相互援助条約締結等に関する

仏国新聞記者の内話について

パリ 5月26日後発  
本省 5月27日前着

第三〇六號

「エコー、ド、パリ」ノ「ベルチナツクス」ハ最近本使ト  
ノ會談中客年九月「エリオ」ノ蘇聯訪問ニ依リ萌シタル佛  
蘇同盟論ハ其ノ後目立チタル發展ヲ見サリシモ最近ニ至リ  
獨蘇間關係離隔ヲ利益トスル考ヨリ佛國側ニ於テ佛蘇關係  
再ヒ検討セラレントシ茲ニ蘇聯ヲ含メル歐洲相互援助條約  
締結説擡頭シ小協商國ハ之ニ贊成ニテ蘇ヲ聯盟ノ機構内ニ  
引入ルル方有利ナリトスル(説)行ハレ蘇ハ聯盟カ具體的平  
和増進策ヲ講スレハ同國ト雖加入必スシモ不可ナラスト爲

105 昭和9年6月1日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の連盟加入が日ソ關係および日中關係に

およぼし得る影響に關し注意喚起について

モスクワ 6月1日前発  
本省 6月1日前着

第二六〇號(極秘)

往電第一六九號蘇聯ノ對國際聯盟態度ニ關スル卑見ニ關シ  
本月中旬「リトヴィノフ」壽府へ出張セル直後「ストモニ  
ヤコフ」次官ハ本使ノ問ニ對シ「リ」カ今次ノ出張中外交  
上何等カノ成果ヲ贏チ得ルニハ相當ノ難關アルヤニ認メラ  
レ聯盟加入問題ノ如キモ之ニ關スル新聞報道ハ正鵠ヲ得居  
ラサル旨語り居タルカ「リ」ノ壽府着後ニ於ケル諸種ノ情  
報殊ニ「バルト」カ廿五日佛國下院ニ於テ爲セル外交演  
説並ニ近着ノ「オスト、エキस्पレス」等ヲ綜合通觀スル  
ニ蘇聯ノ聯盟加入ノ氣運ハ愈濃厚トナリ蘇佛相互援助協約  
モ亦實現ニ近キヤニ認メサルヲ得サル處此ノ間蘇聯トシテ  
ハ佛ノ勸誘ニ應シ條件如何ニ依リテハ聯盟加入ヲ辭セサル  
ヘキ態度ヲ示スト共ニ蘇佛相互援助協約ノ實現ヲ急キ居ル

シ或ハ蘇ヨリ進テ安全保障相互援助問題ヲ提起スルコトア  
ルヤモ知レス又佛國側ヨリスレハ「ロカルノ」條約「ライ  
ン」協定ニ依リ聯盟國ニ對スルニ非サレハ佛國ハ實力援助  
ヲ爲シ能ハサルニ依リ蘇カ聯盟國タル方利益ナリトスヘシ  
但シ蘇ヲ聯盟國タラシムル爲ニハ種々ノ障害アルヘク就中  
波蘭ハ蘇ト同等ノ資格ニテ常任理事國タラントスルノミナ  
ラス波蘭國內ニ於ケル大露西亞少數民族ニ對シ少數民族條  
約ノ適用セラレントヲ惧レ同條約ヲ全然廢棄スルカ左モ  
無クハ大小ノ別無ク聯盟國一樣ニ同條約ノ義務ヲ負擔スヘ  
シトスル同國年來ノ主張ヲ強調スルナルヘシ云々ト述ヘ居  
リタル處去ル十九、二十日ニ亘リ右趣旨ノ論說ヲ同新聞ニ  
掲載セリ

佛國內ニテモ各方面ニテ蘇聯ノ聯盟加入問題及其ノ提唱ス  
ヘシト想像セラルル相互援助問題等論議セラレ居ル處來ル  
廿九日ヨリノ一般委員會ニ於テ果シテ如何ナル形體ノ下ニ  
之等諸問題カ論議セラルヘキヤ豫言シ兼ヌルモ兎ニ角注意  
ノ要アルヘク「ベルチナツクス」ノ所説ノ如キ一考ノ價値  
アルヤニ認メラル

露、壽府ニ轉電シ、在歐洲各大使公使ニ轉電セリ

カ如ク佛ハ先ツ以テ蘇聯ヲ引入レントシ之ニ伴フ障害乃至  
反對ノ除去緩和ヲ策シ居ルニ非サヤト推測セラレ「ストモ  
ニヤコフ」カ前記ノ如ク語りタルモ此ノ邊ノ消息ヲ窺ハシ  
ムルモノナルヤニ考ヘラル佛ノスル行動ハ聯盟ヲ強化シ以  
テ近時波蘭ト著シク接近シ來レル獨逸ヲ牽制スルト共ニ伊、  
澳、洪三國接近ニモ備ヘントスル趣意ニ出ツルモノニシテ  
必スシモ我國ヲ主タル對象ノ一ニ算シ居ルモノトハ認メラ  
レサルモ蘇聯ノ主眼ハ獨ニ對スルヨリモ寧ロ極東ニ向ヒ注  
カレ居ルモノト觀測スルヲ妥當トスヘク

右ニ付テハ曩ニ「バルト」諸邦ニ關スル蘇聯ノ對獨提議ニ  
付在當地英國大使カ本使ニ對シ該提議ハ對日關係ノ考慮ニ  
出ツルモノト見ルヲ得ヘシトスラ語レルコトモアリ又當地  
外交界ニ於テモ右同様ノ觀察ヲ爲スモノアル處素ヨリ蘇聯  
トシテハ獨波接近及獨ノ「バルト」諸邦獨立保障ニ關スル  
蘇側提議拒否並ニ獨ノ再軍備等ニ鑑ミ獨逸傳統ノ東方策ニ  
對シ大ナル關心ヲ有セサルヲ得サルヘク之カ爲波蘭及「バ  
ルト」諸國トノ不侵略條約期間ノ延長取極ヲ爲シ更ニ進テ  
佛ト結ヒ小協商國ヲモ味方ニ引入レ以テ其ノ西南ノ不安ヲ  
除カント努ムルモノナルヘキモ右努力ハ同時ニ極東ノ不安

ニ備フル必要ヲ痛感シ居ル爲ニシテ帝國カ蘇聯ノ提議ニ拘ラス依然不侵略條約ニ對シ興味ヲ示ササル一方帝國ノ一部ニハ蘇聯打倒論ヲ高唱スル者アリ殊ニ近時帝國內ノ雰圍氣ハ何時スル論者ヨリ成ル「ファツシヨ」的政權ノ出現ヲ見ルヤ計リ難キ情勢ニ在リト認メラレ居ルニモ鑑ミ國內ノ建設未タ半途ニシテ

國際のニハ平和協調ヲ第一義トスヘキ蘇聯トシテ西南方ノ平和確保策ニ腐心スルハ寧ろ當然ノ努力ナリト評スヘク而シテ斯ル努力カ其ノ效果ヲ舉クルニ從ヒ我國ノ立場ハ相對的ニ不利益トナリ蘇聯ノ我ニ對スル從來ノ協調的態度モ變轉スヘク若シ又蘇聯ノ聯盟加入實現スルカ如キ場合ニハ支那ノ對日態度ヲ硬化セシムルハ勿論蘇支兩國ノ策動モアルヘク惹テ我國關係特ニ對支關係ハ益々難關ヲ増スニ非スヤト危惧セサルヲ得ス從テ帝國トシテハ斯ル情勢ニ鑑ミ蘇佛相互援助協約乃至蘇聯ノ聯盟加入ニ付或ハ佛ニ或ハ英ニ對シ夫々事情ニ應シタル或種ノ外交工作ヲ施シ以テ之カ實現ノ阻止ニ努ムルノ外更ニ場合ニ依リテハ蘇佛ノ工作ニ對抗スルノ意味ニ於テ英獨ト提携スルカ如キ方策ヲ講スルコト肝要ナラスヤト思考セラルル處右ニ關シ政府ニ於テ何等

行懸ニ鑑ミ佛國今回ノ申入ハ事態ヲ紛糾スル惧アリヤノ印象ヲ與ヘ居レリト云フ  
十三日「エ」國公使カ當國「ベツク」外相ト會談シタル際「ベ」外相ハ未タ本件ヲ知ラサルモノノ如ク且佛外相カ佐藤大使ニ語リタル諸點ノ如キモ大體論ト想像シ餘リ重キヲ置キ居ラサリシ模様ナリシト  
佛、獨、露、「チエ」、「ラトビヤ」へ暗送セリ

107 昭和9年6月19日 在独國永井大使より  
広田外務大臣宛(電報)

リトヴィノフよりノイラート外相に対する東  
欧ロカルノ構想提起について

ベルリン 6月19日後発  
本省 6月20日前着

第一二二號(極秘)

蘇佛ノ東方「ロカルノ」計畫(獨逸、波蘭、蘇聯邦及「チエツコ」ヲ締約國トシ且佛國カ保障ス)ニ關シテハ獨逸ハ之ヲ以テ自己ニ鋒先ヲ有スルモノナリトシ反對シ居ル處相當確カナル筋ヨリノ内聞ニ依レハ「リトヴィノフ」ハ壽府

決定セラレタル御方針アラハ本使心得迄ニ御回電アリ度シ  
在歐米各大使及壽府へ轉電セリ

106 昭和9年6月16日 在ポーランド伊藤公使より  
広田外務大臣宛(電報)

仏国からエストニアへの欧州諸国間相互援助  
条約参加方提議に関する在ポーランド・エ  
ストニア公使の内話について

ワルシャワ 6月16日後発  
本省 6月17日前着

第五一號

十五日「エストニア」公使ノ内話ニ依レハ

「十一日頃在「エ」國佛國公使ハ「エ」國外相ニ對シ佛國ハ「バルチック」「スカンデナビア」露國波蘭獨逸「チエツコスロバキア」ノ諸國間ニ相互援助條約ヲ締結スルノ提議ニ關シ贊成ナル旨申入レタル由

ニ右ハ全權發閣下宛電報第七六二號佛國外相ノ意見實行ノ着手ト認メララルル處新ニ「チエツコスロバキア」ノ加ヘラレタル點ハ奇異ニシテ且從來ノ「バルチック」協定提議ノ

ヨリノ歸途十三日當地ニ於テ「ノイラート」外相ト會見シタルニ際シ東方「ロカルノ」條約ヲ提案シタル爲兩者ノ間ニ激シキ場面ヲ現出シタル由ニテ之カ爲在蘇獨逸大使ハ直ニ辭意ヲ表示セルカ獨逸政府ハ兩國外交關係ノ實狀ニ鑑ミ暫ク大使ヲ置カサル意嚮ナルカ如シト云フ  
在歐各大使ニ並ニ在波蘭及在「チエツコ」公使ニ暗送セリ

108 昭和9年6月29日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

東欧ロカルノ構想に関するリトヴィノフの仏  
國記者への談話について

モスクワ 6月29日後発  
本省 6月30日前着

第三一九號

二十九日ノ新聞ハ最近當地へ旅行セル佛國新聞記者 Jules Sauerwein ナル者ニ與ヘタル「リトヴィノフ」ノ會見談ヲ發表セルカ其ノ大要左ノ通

地方的相互援助協約ノ支障ハ平和維持ノ不安ヨリ來ルナリ軍縮ハ精々現存ノ軍備ノ固定ニ止マル可ク又佛ノ軍縮協定

ハ戰時ニハ遵守ノ義務無ク且今日軍需品工業ハ大ニ發達シ居ルニ依リ壽府ニ於テ考ヘラレ居ル程度ノ軍縮ハ安全ノ保障トハ認メ難ク不戰條約及聯盟規約亦然リ又多數ノ不侵略條約アルモ右ハ平和ヲ増進スルトハ限ラス何トナレハ極メテ侵略的ナル國カ第三國攻撃ニ當リ背後ヲ安全ナラシムル爲或國トモ此ノ種條約ヲ結フコトアル可ク吾人ハ「分割シテ統治スヘシ」トノ主義ヲ奉シ一隣國トノ不侵略條約ノ締結ヲ頑強ニ拒絶シナカラ他ノ隣接國ニ斯ル條約ヲ強要セント試ミ居ル國(複數)アルヲ知ル軍事同盟及勢力均衡政策モ亦安全ヲ保障セス依テ吾人ハ相互援助協約ニ到達セルカ右ハ何國ニテモ參加シ得可ク一國ヲ包圍セントスルモノニアラス壽府軍縮總會ニテハ相當反對者アリタルカ這ハ自國ニ關ハリ無キ限り安全ノ増進ニ興味ヲ有セサルコトヲ示スモノナリ尤モ東歐地方協約ノ成功ニハ時日ヲ要ス右協約ハ巴爾幹協約ト形式上ノ關係無キモ蘇聯ハ之ニ贊成ナルノミナラス斯ル地方的協約ヲ歐洲ノ他ノ部分ニモ適用スヘキモノト思考ス此ノ種ノ協約ハ「ロカルの」條約ニ類シ東亞ニ對シ同様に役目ヲ爲スモノナリ



不可能事ナルヘキモ極東ニテ餘リニ增長スル結果我ニ對シ挑發的態度ニ出ツルナキヲ保セス事茲ニ至ラハ如何ナル不祥事發生セストモ限ラス其ノ影響スル所遂ニ西歐諸國間ノ安全機構ヲ動搖スルニ至ルヤモ知レス

但帝國政府ハ好シテ露國ト事ヲ構フルモノニ非サルコト勿論ニテ友好關係ノ持續ニ努力ヲ惜マサルヘキコト最近接受セル外務大臣來電ニ依リテモ本使ノ確信スル所ニシテ本使自身亦此ノ意味ニテ微力ヲ盡スヘキコト既ニ壽府ニテ申述ヘタル通りナリト述フ

「バ」ハ佛國ノ努力カ常ニ歐洲ノ平和維持ニアルコト多言ヲ要セス今回ノ旅行ニ於テモ至ル所露國トノ親善カ歐洲ノ平和維持以外ニ出テサル所以ヲ説明シ羅、塞兩國ノ同意ヲ得タル次第ニテ露トノ關係カ直接ニモ間接ニモ日本ノ脅威トナルカ如キハ佛國政府ノ絕對ニ欲セル所ナリ露國トノ關係ハ或ハ舊時ノ同盟關係迄發展スルコトナキヲ保セサルモ夫レハ政治上ノ同盟ニ過キス佛國ハ日本トノ親善關係ヲ特ニ重要視シ尊重スルカ故ニ假令政治上ノ同盟ナクモ友好關係ヲ犧牲ニスルカ如キハ絕對ニ之ヲ欲セス之ニ反シ支那トノ關係ハ同シク友好的ナルニ相違ナキモ日本ニ對スルト同

昭和9年6月30日

在仏國佐藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

仏ソ關係および東歐ロカルの構想等が我が方にて与える影響につきバルトゥー外相より聴取について

パリ 6月30日後発

本省 7月1日着

第三五四號(極秘)

「バルツ」二十八日歸巴ニ付本使出發前特ニ會見ヲ申込ミ二十九日夕刻四十分間會談ス本使先ツ安全保障問題ニ關シ度々忌憚ナキ外相ノ意見ヲ聽取スルヲ得帝國政府ニ於テモ幸甚トシ居レル旨ヲ述ヘ明日出發歸朝ニ際シ外相ノ「バルカン」旅行ノ結果日蘇關係ニ付何カ影響ヲ及スヘキ新事實ナカルヘキヤ帝國政府ハ勿論佛國政府ノ我ニ對スル友好的感情ニ信賴スルモノナルモ相手ノ蘇聯ハ如何ナル目算ヲ有スルヤ測ルヘカラス彼ノ眞意ハ日本ヲ孤立セシムルニ在リテ西方國境ノ隣邦諸國トノ不可侵條約米國トノ國交回復等皆此ノ目的ニ出ツルコト疑ナク今又佛國ト友好關係ヲ付ケ保障條約等ニ依リ西方ニ安心ヲ得極東ニ力ヲ用ヒントスル下心ト見ラレ西歐諸國ヲ誘ヒテ極東ニ進出スルカ如キハ

様ト證言ヲ與フルハ到底不可能ナリトス又蘇聯カ西方ノ安全ヲ賴ミ極東方面ニ強壓的態度ニ出ツルコトアルヘシトノ觀察ハ一應御尤モナルモ佛國ハ同國ト保障條約ニテモ締結シ得ハ一層容易ニ同國ヲ掣肘シ得ヘク又斯クスル方自國ノ國策ニ副フ所以ナリトス日本ハ決シテ外交上孤立ニ陥リ居ラス寧ロ主要國トノ關係ヲ緊密ナラシメタリ此ノ點何等遲疑セラルルヲ要セストテ極メテ熱心且眞執ナル態度ヲ以テ説明セリ

二十七日三谷紹介ヲ兼ネ「レジェ」ヲ往訪本使ヨリ露國カ安全保障ヲ惡用スルノ虞アルニ言及セル處實ハ内々ノ話乍ラ最初蘇ハ何レノ國ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ニモ保障條約國ノ共同動作ヲ必要のナラシム考ナリシモ佛ハ全絶之ヲ排斥シ歐洲ニ局限スルニ成功セリト語レリ「バ」ハ更ニ相互援助條約ハ正式ニ獨國政府ニ通課シ波蘭ニハ非公式ニ通牒セル處前者ハ明白ニ拒絶シ後者ハ躊躇ス兩國ノ態度如何ニ依リテハ今後如何ナル方策ニ出ツルヘキヤ佛國政府トシテモ未タ方針ヲ決定シ居ラス但英國ノ諒解ハ既ニ壽府會議ノ末項ニ於テ餘程増大セル觀アリ自分ハ七月九日十日ニ巨リ英京ヲ訪問スヘク對露交渉ノ一切ヲサラケ出シ其ノ不安

ヲ除カントス而シテ自分ノ英ニ對シ言ハントスル所ハ本日  
貴大臣<sup>(英)</sup>ニ對シ述ヘタル所ト全然同一ナルヘシ自分ハ英ノ諒  
解ヲ取付クル確信アリ次イテ或ハ伊國ヲモ訪問スヘク斯ク  
テ本年中ニハ歐洲ノ安全ヲ全然新ナル基礎ノ上ニ置クニ成  
功スルヤモ知レズト述ヘ樂觀的態度ヲ示セリ「バ」ノ心中  
何等期待スルモノ有ルヤニ見受けラレタリ  
在歐各大使(土ヲ除ク)壽府へ暗送セリ

110 昭和9年7月11日

在独国永井大使より  
広田外務大臣宛(電報)

東欧ロカルノ構想に独国は賛成しかねるとのノ  
イラート外相の内話について

ベルリン 7月11日後発  
本省 7月12日前着

第一四五號

佛蘇ノ東方「ロカルノ」案ニ關シテハ獨逸トシテハ右條約  
ノ締結ハ獨逸ニ取り東方國境ノ「ステータス、クオ」ノ承  
認トナリ武力ニ依ラサル國境改定ノ努力ノ抛棄ヲモ意味ス  
ルコトトナルト共ニ獨逸ハ他ノ締約國トノ武力ノ不權衡ノ

第二八號

十日「ベネシユ」外相ニ面會往電第二五號ニ言及セラレ居  
ル東歐協定ニ關シ質シタル處大要左ノ通り説明シタリ

プラハ 7月11日後発  
本省 7月12日前着

關係國間ニ商議進捗中ノ案ナルニ付演說中ニハ今日迄新聞  
紙上ニ表ハレタル範圍ヲ出テサル様留意シテ説明ヲ加ヘ置  
キタル次第ナルカ本件商議ハ「ブラーグ」以外ノ地主トシ  
テ巴里、莫斯科、伯林ニテ行ハレ來レリ其ノ發端ハ最近佛  
蘇間ニ接近ノ氣運濃厚トナリタルニ乘シ蘇側ヨリ提議シタ  
ルモノト了解スル處蘇聯政府カ各歐洲諸國ニ對シ接近ヲ求  
ムル所以ハ一方ニ於テ滿洲事變以後極東方面ニ於テ不安ヲ  
感シ居ルノミナラス他方ニ於テ獨逸ノ國粹社會主義革命ニ  
次キ獨逸間ニ協商成立シタル爲蘇聯ヲ目標トスル一種ノ陰  
謀(日本モ加擔シ居ルモノト想像シ居ルカ如シ)存在スルカ  
如ク疑懼シ佛國及中歐諸國ニ對スル協調的政策ニ依リ此ノ  
危険ヲ緩和センコトヲ計リタルモノト推測ス佛國ハ参加ノ  
條件トシテ本協定カ同盟條約ニアラサル地方的性質ノモノ  
ナルコト從テ加盟國間ノ關係以外ニハ何等干與スル所無ク

爲本件條約ニ依ル壓迫ヲ受ケサルヘカラストシ東方「ロカ  
ルノ」ヲ以テ獨逸ヲ目標トスルモノニ外ナラストテ反對シ  
居ル處往電第一四三號會見ノ際外相ハ反獨的「コルドン」  
トモ云フヘキ東方「ロカルノ」ニ同意シ得サルノミナラス  
又一方獨逸ハ之ヲ成立セシメテ蘇聯邦ノ東亞ニ對スル活動  
ニ自由ヲ與フヘキ理由ヲ有セストノ旨内話シタリ  
尙<sup>⑧</sup>右談話ト關聯シ外相ハ獨蘇關係ハ蘇側ニ於テ獨逸ニ於ケ  
ル共產主義ノ壓迫ニ依然不滿ヲ抱キ居ル爲好カラサルモノ  
アルコトヲ述ヘタルカ他面在當地蘇聯邦大使ハ離任挨拶ノ  
爲九日本使ヲ來訪セルニ當リ「ナチ」政府カ東方進出ヲ意  
圖シ居ルハ事實ニシテ「リトヴィノフ」モ從來再三此ノ點  
ヲ獨逸側ニ指摘シ居リ兩國關係ノ真相不良ナルコトヲ内話  
シタリ  
在歐各大使(土ヲ除ク)へ暗送セリ

111 昭和9年7月11日

在チェッコ・スロヴァキア堀田公使より  
広田外務大臣宛(電報)

東欧ロカルノ構想の我が方への影響等につきベ  
ネシユ外相より聴取について

且歐洲内ニ相對抗スル團結ヲ現出スル危険ナキモノタルヘ  
キコトヲ主張シ居レリ獨逸モ既ニ本件提案ヲ接受シタルモ  
未タ贊否ノ意見ヲ明示セサルカ必スシモ其ノ参加ハ不可能  
ニアラスト考フ尙演說中本件協定ノ成立ニ依リ極東ニ於ケ  
ル紛争ノ發生ヲモ防止シ得ヘキ旨ヲ說キタル一節アリ恰モ  
日本ニ對スル團結ヲ形(成)セントスルモノナルカ如キ感ヲ  
抱カシムル惧アル點ヲ指摘シタルニ外相ハ  
本件提案ハ既ニ説明シタル通り同盟條約ノ性質ヲ有セス且  
嚴格ニ地方的協定トシテ其ノ適用ハ締盟國間ニ限局セラ  
ルモノナルカ故ニ極東問題ニ何等觸ルルモノニアラス況ヤ  
日本ニ對抗スル團結ヲ形成スルカ如キコトハ全然アリ得ヘ  
カラサルモノナリト辯シタリ  
在歐各大使、波蘭、澳、羅へ暗送セリ

112 昭和9年7月13日

在仏國三谷臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

バルトゥー外相訪英時におけるサイモン外相との  
東欧ロカルノ構想などに関する会談情報について

第三八三號

パリ 7月13日後発  
本省 7月14日前着

「バルト」外相ノ訪英ニ關シ聽取者ノ内報左ノ通  
東歐「ロカルノ」條約案ニ關シ「サイモン」ヨリ同條約不  
成立ノ場合佛國ハ蘇聯邦ト同盟關係ニ入ルヘキヤヲ質問シ  
「バ」ハ之ニ對シテ確答シ得サルモ同案ニシテ不成立ニ終  
ラハ右ノ如キ已ムヲ得サル事態トナルヤモ知レスト答ヘタ  
リ次テ「サ」ハ同條約案交渉ト同時ニ佛カ獨逸ト軍縮交渉  
ヲ爲サンコトヲ欲シタルカ「バ」ハ最近獨逸ノ政情ニ顧ミ  
佛國トシテハ今之ヲ相手トスル能ハス成行ヲ觀察シ居リ本  
提案ニ對スル獨逸ノ態度コソ見物ナリト思ヒ居ル次第二テ  
獨逸ノ態度見極着カサルニ獨逸ト軍縮ヲ論議スル能ハスト  
テ之ヲ拒絶シ結局「サ」ハ無條件ニテ同條約案ニ贊同シ尙  
獨、伊、波ニ對シテ之カ成立ノ爲斡旋スルコトヲ約シタリ  
而シテ英國政府ハ十二日右三國政府ニ對シテ英國政府カ同  
條約案ノ成立ヲ重要視シ居リ各當該國カ英國政府ト同意見  
ナルコトヲ望ム旨ノ申入ヲ爲シ伊國政府ハ既ニ贊同シ波蘭  
政府ノ態度モ緩和セル由ナリ

從來ヨリ英國ト同様ノ方針ヲ持シ「ロカルノ」條約以上ノ  
約定ヲ必要トセサル可キ旨主張シ來レル處前記倫敦ニ於ケ  
ル會談ノ結果同案ハ面目ヲ一新シ伊國ノ傳統的政策ニ著シ  
ク接近セルヲ以テ之ニ好意的考慮ヲ加フヘシ尤モ之ニ最後  
の決定ヲ與フルハ關係國ナルコト勿論ナリ  
在歐各大使、知惠古、羅、波ニ郵送セリ

114 昭和9年7月16日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

東欧ロカルノ構想の東亞への影響等に関する  
中国紙の報道振りについて

南京 7月16日後発  
本省 7月16日後着

第八一〇號  
最近佛國外相ノ渡英ニ依リ英國ハ東部歐洲ノ相互保障條約  
並ニ蘇聯ノ聯盟加入問題ニ關シ同意ヲ與ヘタル旨ノ報道ハ  
當方面ニ於テモ異常ノ注意ヲ惹起シ十六日朝報及中國日報  
ハ何レモ「東亞相互公約ノ具體化」ナル社説ヲ掲ケ本件ニ  
關スル英佛協商ノ經緯ヲ説明シタル後朝報ハ本公約成立セ

英、伊、獨、露、波蘭へ轉電シ白、土、知惠古、羅、「ラ  
トビヤ」及壽府へ暗送セリ

113 昭和9年7月14日 在伊国岩手(嘉雄)臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

東欧ロカルノ構想に対する伊國の態度變更に  
關し伊國紙報道について

ローマ 7月14日後発  
本省 7月15日前着

第七四號  
今回佛外相「バルト」訪英ノ際英外相「サイモン」トノ  
間ニ討議セラレタル東方保障協約案ニ關シ伊國政府筋ノ意  
嚮トシテ十四日當地各紙ニ發表セラレタル處大要左ノ如シ  
本保障協約案ハ英佛外相會談ノ結果根本的ニ改變セラレ從  
來想像セラレ居リシ如キ反獨的色彩ヲ失ヒ「ロカルノ」條  
約ニ於ケル獨佛國境ニ關スル相互主義的關係ヲ取りテ以テ  
獨露國境ノ保障ト爲サントスルモノナルノミナラス他方獨  
逸ノ要求シ來レル平等權ノ暗黙の承認ノ效果アリ伊國ハ右  
兩國境ニ直接利害關係ヲ有セサルヲ以テ本協約案ニ付テハ

ハ獨佛蘇聯相互間ノ空氣ヲ緩和シ歐洲ノ安全ニ資スル處少  
カラサルヲ以テ軍縮會議ノ再開ヲ可能ナラシムルノミナラ  
ス(一)英國ヲシテ安シテ海軍問題ニ專念スルヲ得シメ(二)蘇  
聯ヲシテ西歐ニ對スル不安解消セシムヘク以テ勢ヒ英國及  
蘇聯ノ極東政策ノ積極化ヲ誘致スヘク東亞ニ對スル本件ノ  
影響甚大ナルヘキ旨ヲ論シ中國日報モ略同様ノ論斷ヲ爲シ  
タル後唯歐洲ノ事態ハ複雑ニシテ一片ノ條約ヲ以テ根本的  
安定ヲ期スルコト困難ナルヘク之カ爲今日迄極東ニ於ケル  
日本ノ跋扈カ默認セラレ居ル次第ナルカ本件工作ハ結局第  
二次世界大戰ヘノ過程タルヘシトノ趣旨ヲ附言シ居レリ  
支、北平へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

115 昭和9年7月17日 在ジュネーヴ横山國際會議事務局長代理  
兼總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

東欧ロカルノ構想成立がもたらすであるつ我  
が方の孤立化回避につき伊藤公使意見具申

ジュネーヴ 7月17日後発  
本省 7月18日前着

第一五八號(極秘)

伊藤公使より

十三日伯林ニ於テ佛大使(大戰中ヨリ知色)ト會談中話題  
宮殿下ノ御來伯ニ及ヒタル際同大使ハ日本ノ高官カ伯林ニ  
來ル毎ニ日獨秘密協商ニアラスヤト戰々競々スル次第ナリ  
ト告白セルニ付本使ハ右カ誇張ニ過クルコトヲ説明スル  
同時ニ「バルト」外相ノ東方「ロカル」等モ斯ル危懼  
ニ基クコトモアルヘシト注意シ置ケリ

東方「ロカル」ノ眞相ナルモノハ蘇聯邦カ佛國ノ右ノ如  
キ危懼ノ念ヲ利用シ佛國ヲシテ提議セシメタル處英、伊、  
獨ノ反對アリ少クトモ英伊ノ反對ヲ除去スル必要上相互的  
ト爲シタルモノニ過キス

ニ若シ右ニ依リ英、伊ノ後援アラハ獨、白等ハ絕對ニ反對  
スルコト困難トナリ或ハ成立スルヤモ知レス若シ成立スル  
場合ニ實際軍事上如何程ノ效果アルヤハ非常ニ疑問ナルカ  
唯蘇ヲ加ヘタル歐洲ノ安定ヲ示スカ如キ外觀ヲ呈スルト同  
時ニ兩三年以來事實上存在セシ我方ノ孤立狀態ヲ明文化ス  
ルカ如キ間接ノ結果ヲ來スヘク右協定ノ結果蘇、獨ノ聯盟  
加入トモナラハ我方ノ孤立ハ一層具体化スルコトナルヘ

威トナルカ如キハ佛國ノ絕對ニ欲セサル所ナル旨語レル趣  
ナルカ東歐「ロカル」條約成立セハ西方國境方面ニ於ケル  
蘇聯邦ノ地位ハ著シク安固ト爲リ從テ極東方面ニ對スル  
同國ノ活動ニ餘力ヲ生スルコト爲ルヘキ處右ハ同方面ニ  
於ケル蘇聯邦軍備強化ノ現狀等ニ鑑ミ延テ如何ナル事態ヲ  
惹起スルヤモ測ラレス我方ニ於テモ大ニ注意シ居ル次第ナ  
ルニ付テハ貴官ハ外務當局ニ對シ我方カ右ノ意味ニ於テ東  
歐「ロカル」條約ニ對シ多大ノ關心ヲ有スル次第ヲ篤ト  
説明セラレ本條約佛國原案ノ呈示ヲ得ハ幸ナルヘキ旨御申  
入レアリタク同時ニ左記ニ點可然方法ニ依リ御確メノ上結  
果電報アリタシ

(一)貴電第三八三號ニ依レハ英外相ハ佛案無條件讚同セル趣  
ナル處在波公使ヨリハ本大臣宛電報第六七號ヲ以テ佛國原  
案ハ修正ヲ加ヘラレタル旨報告ノ次第アルニ付テハ右修正  
ノ有無及内容

(二)東歐「ロカル」條約成立ノ上ハ獨逸ノ再軍備或程度迄  
實現セララルコト、ナルヘキ旨傳ヘラレ又先般英國政府モ  
右趣旨ヲ以テ獨逸側ニ對シ本條約加入ヲ勸誘セル趣ナル處  
貴電第三八七號ニ依ルニ此點ニ關シ英佛間ニ見解ノ相違ア

三 欧州政況關係

シ

ニ右ハ蘇聯外交ノ一成功ヲ意味スルモノナルニ付我方トシ  
テハ現下ノ政局上相互地方協定ノ成立ヲ阻止スルコト必要  
ナルヘシトノ愚見ハ既ニ申進シ置キタル處今トナリテハ右  
ハ困難ナルヘキニ付此ノ機會ヲ利用シ從來我方ニ對シ表面  
上親善關係ヲ示シ又ハ希望シ來レル英、佛兩政府カ我國ヲ  
孤立セシムルカ如キ政策ノ手先又ハ後援者トナルハ我方ノ  
遺憾トスル所ナル旨ヲ明瞭ニシ少クトモ兩國政府ニ關スル  
限り斯ルコトナキ様明確ナル保障ヲ取付クルコト賢明ナリ  
ト存セラル

116

昭和9年7月26日

広田外務大臣より  
在仏國三谷臨時代理大使宛(電報)

東歐ロカルノ條約に關する仏國側原案提示な

どにつき仏國当局へ申入れ方訓令

本省 7月26日後6時0分發

第一九二號

貴電第三五四號ニ依レハ

「バルト」ハ佐藤大使ニ對シ蘇聯邦トノ關係カ日本ノ脅

ルヤニ認メララルニ付テハ之ニ關スル真相及佛國側ノ見解  
英、獨、伊、蘇、波蘭へ轉電アリ度シ

117

昭和9年8月1日

在仏國三谷臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

東歐ロカルノ條約仏國側原案提示方仏國政務  
通商局長へ申入れについて

パリ 8月1日後發

本省 8月2日前着

第四〇二號

貴電第一九二號ニ關シ

三十一日本官政務通商局長「バルジュトン」ヲ訪ヒ御來示  
ノ次第ヲ述ヘ東歐「パクト」案ノ呈示ヲ求メタル處同局長  
ハ同「パクト」ハ締約國ノ一カ條約違反ヲ爲セル場合ノ相  
互援助ヲ規定セルモノニシテ締約國ノ一ト非締約國トノ間  
ニ紛争ヲ惹起スルモノ右ハ本條約ニ關係ナキコト又蘇國ハ目  
下何レノ方面ニモ事ヲ起ス意無シト信スルコト尙蘇國カ聯  
盟ノ一員トナル結果ハ同國ニ聯盟規約ニ依ル義務ヲ負ハシ

メ日本ニ對シテモ安全ヲ増スヘシ等々述ヘタル上條約案トシテ起草セル案文ハ無ク關係書類アルニ止マルモ御希望ノ次第八大臣トモ協議ノ上御答スヘシトテ三日再會ヲ約シタリ

尙書電後段御質問ノ二項ニ付新聞情報ヲ補ヒ度シトテ「バ」局長ニ尋ネタル結果左ノ通

(一)在波公使發大臣宛電報第六七號ニ關シ原案ニ修正ヲ加ヘタルニアラス唯説明トシテ英國訪問ニ際シ蘇カ獨ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ニ蘇ヲ援クルノミナラス蘇ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ニモ佛國ハ獨逸ヲ援クル用意アル旨ヲ明カニセリ(右ハ當初ヨリノ意嚮ナリシモ周圍ノ事情ニ依リ英國訪問迄之カ明言ヲ避ケタリ)又蘇側モ佛ノ攻撃ニ對シ獨ヲ援クル用意アル旨ヲ言明セリ

(二)英外相及佛外相ノ演說ハ其ノ聽衆ノ異ルニ從ヒ自ラ用語調子ニ相違アルヘキモ互ニ矛盾スルモノニアラス條約締結ノ上ハ新タナル安全ノ要素ヲ生シ從テ軍縮問題モ更ニ一步ヲ進メ得ヘシト思考スルモ東歐「パクト」ト軍縮問題ト互ニ條件ヲ爲スモノニアラス右ニ關シ英佛間ニ見解ノ相違無シ

ヲ貸サス東歐諸國ハ獨力政局ノ改善ニ努力シタル結果漸ク或程度ノ安定ヲ實現スルニ至リタル昨今トナリ初メテ東方「パクト」ノ提議ヲ見タル次第ナルカ波蘭政府トシテハ本問題ニ對シ研究スルハ敢テ辭セサル所ナルモ其ノ影響及實行細目ニ關シテハ慎重ニ研究ノ必要アリ未タ所謂主義上ノ贊成モ與ヘ居ラサル程度ニシテ斯ル重大ナル問題ニ對シ取急キ決定スルノ理由ナシト思考シ居ル旨ヲ述ヘタリ

三本使ハ東方「パクト」成立ノ曉ニハ露國ハ國際聯盟ニ加入スルコトトナルヘク先般英外相ノ如キハ下院ノ演說ニ於テ露國ノ聯盟加入ニ贊意ヲ表セルカ果シテ是等諸國政府ニ於テハ露國ノ聯盟加入ヨリ生スル重大ナル結果ニ關シ(本使ハ特ニ三點ヲ指摘セリ)充分ナル考慮ヲ爲セルモノナリヤト切出シタルニ對シ「ベ」外相ハ自分トシテハ其ノ前提タル東方「パクト」ノ研究ニ限ラレ未タ露國ノ聯盟加入問題ニ關シ研究スル所ニ至ラサル次第ナルカ今日迄自分ノ得タル報道ニ依レハ蘇政府自ラ聯盟加入ニ依リ利害得失錯綜シ未タ何レヲ得策トスルヤ決シ兼ネ居ル有様ニシテ何等カ重大且明瞭ナル利益ノ提供ニテモアラハ初メテ聯盟ノ加入ヲ決スルニ至ルヘキ状態ナリト思考セラル從テ肝心ノ露國

尙右ノ點ニ關シテハ最近往電第三八三號ノ諜報者ニ再會ノ際再ヒ確メタルニ倫敦ニテ英外相ハ「パクト」ト併行シテ軍縮ノ交渉ヲ爲サンコトヲ提議シタルニ對シ「バルト」ハ之ヲ絶對的ニ拒絶セリト申シ居リタリ

英、獨、伊、露、波蘭へ暗送セリ

118 昭和9年8月2日 在ポーランド伊藤公使より 広田外務大臣宛(電報)

東欧ロカルノ構想およびソ連の連盟加入問題 に関しベック外相と意見交換について

ワルシャワ 8月2日前発 本省 8月2日後着

第六八號

往電第六七號ニ關シ(東歐「ロカルノ」案ノ内容一件)

「ベック」外相「バルト」諸國ヨリ歸來セルニ付一日往訪現下ノ政局ニ關シ意見ノ交換ヲ行ヒタルカ參考トナルヘキ點左ノ通

「ベ」外相ハ所謂東方「パクト」ニ關シ兩三年前東歐ノ形勢切迫セル當時西歐諸國ハ之ニ對シ何等政局安定ノ爲力

カスノ如キ有様ナル今日彼是意見ヲ述フルハ尙早ナリト語レリ

三本使ハ東方「パクト」ニ關スル同外相ノ意見ニ贊同ノ意ヲ表スルト同時ニ本件ニ關シ佛國側ニ於テハ單ニ歐洲問題ノ如ク云ヒ居ルモ其ノ影響スル所ハ決シテ歐洲ニ止マラス我國ニ於テモ多大ノ關心ヲ以テ其ノ成行ヲ注視シ居レル旨述ヘ置キタリ

英、佛、獨、露、壽府、「ラトヴィア」へ暗送セリ

119 昭和9年8月4日 在仏國三谷臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)

仏国政務通商局長より東欧ロカルノ条約仏國 側原案提示について

パリ 8月4日後発 本省 8月5日前着

第四〇六號

往電第四〇二號ニ關シ(東歐「ロカルノ」條約ニ關スル件)三日「バ」局長ハ往訪ノ本官ニ對シ關係(國)ニ通告セルモノノ寫ナリトテ要領次ノ如キ文書ヲ交付シ右ハ前回モ述ヘ

シ通り條約案ト稱スヘキモノニアラス一ノ考案 (Idée) ナリト繰返シ念ヲ押シ居タリ尙文書ノ表題ハ Schéma de pacte régional de l'est トアリ

第一、獨、「エストニア」、芬蘭、「レットニー」、「リツアニア」、波蘭、知恵古、露國間ニ於ケル地方的援助協定

一、締約國ノ一カ他ノ締約國ヨリ攻撃ヲ受ケタルトキハ國際聯盟ノ機構内ニ於テ直ニ之ヲ援助スルコトヲ約ス

二、締約國ヲ攻撃セル非締約國ヲ支持 (Soutenir) セサルコトヲ約ス

三、締約國ノ一カ攻撃ヲ受ケ又受ケントスル脅威アルトキハ互ニ協議スルコトヲ約ス右協議ハ締約國以外ノ國ニモ及ホスコトヲ得ヘシ

四、締約國ノ一ノ利益ノ爲聯盟規約第十條、第十六條ヲ適用スヘキ場合ニハ右ノ規定ヲ完全ニ適用スル爲共同動

作 (Commun efforts) ヲ爲スコトヲ約ス

第二、佛蘇協定

一、第一ノ協定ニ依リ達セントスル結果ヲ得ル爲貢獻スルコト兩國共通ノ意思ナリ

二、蘇ハ佛ニ對シ「ロカルノ」條約ニ於テ英及伊カ佛ニ對

合第八九二號

本省 8月18日後4時20分發

本年六月佛國政府ヨリ關係諸國ニ通告セラレタル所謂東歐「ロカルノ」條約成立セハ西方國境方面ニ於ケル蘇聯邦ノ地位安定ノ結果極東方面ニ於ケル同國ノ活動ニ大ナル餘力ヲ生スルコトト爲ルヘク從テ同條約ノ成行ニ對シテハ我方トシテモ深甚ノ注意ヲ要スル次第ナル處同條約ノ内容ニ關スル報道區々ナルモノアリシヲ以テ在佛代理大使ニ電訓シ佛國外務當局ニ對シ同條約ニ對シテハ我方モ關心ヲ有シ居レル次第ヲ述ヘ佛國原案ノ呈示方ヲ申入レシメタルニ同代理大使ヨリ之ニ關シ別電第八九三號<sup>編註</sup>ノ通り回電アリタリ右佛國案ニ依ルニ佛國外務當局再三ノ言明ニ反シ締約國ト非締約國トノ關係ニモ及ヒ居レルヲ以テ本條約ニ對スル我方ノ關心ハ更ニ増大セサルヲ得サル次第ナル處本條約ニ對スル關係諸國ノ態度ニ關スル出先官憲ヨリノ諸情報ヲ綜合スルニ蘇聯邦及「チエツコ」ハ勿論「エストニア」「ラトビア」及「リシアニア」等モ漸次本條約參加ニ傾キツツアルモ獨波兩國ニ於テハ本條約成立ノ結果行動ノ自由ヲ制限セラレ佛蘇ノ壓迫ヲ受クルニ至ルヘキヲ慮レ從來之ニ反對シ

シ負ヘル義務ヲ負擔ス

三、佛ハ蘇ニ對シ次ノ場合ニ於テ第一ノ協定ニ規定セル援助ノ義務ヲ負フ

(一) 聯盟規約第十六條適用ノ爲ノ行動

(二) 聯盟總會理事會ノ決議又ハ規約第十五條第七項ノ適用ニ依ル行動

四、佛ハ第一ノ三ノ協議ニ參加ス

(注意) 獨逸政府ヨリノ同種ノ約定ヲ求メラレタル場合ニハ獨逸ノ利益ノ爲同様ノ義務ヲ考慮シ得ヘシ

第三、前記諸協定ヲ集合シ之ヲ聯盟規約ト調和セシメ殊ニ右諸協定ノ實施ニ付蘇聯邦ノ聯盟加入ヲ條件トスル爲一般

的議定書ヲ作成ス

原文郵送ス

英、獨、伊、露、波蘭、壽府へ暗送セリ

120 昭和9年8月18日

広田外務大臣より  
在滿州國袁公使、在中國有吉公使、在中國若杉公使館一等書記官他宛(電報)

東欧ロカルノ構想に關し我が方の情報把握狀況について

來リ殊ニ獨逸トシテハ本條約ト軍備平等權トノ關係カ不明確ナル點等ヨリシテ之ニ對シ強硬ニ反對シ居ル模様ナルカ先般佛國外相「バルトウ」ノ倫敦往訪ノ結果英國側ハ本條約成立ノ爲斡旋方ヲ引受ケ伊國亦好意的態度ヲ表明スルニ至レルヲ以テ獨波兩國ノ立場ハ一層困難ト爲レル觀アリ尤モ英伊兩國カ從前ト異リ好意的態度ヲ示スニ至レル所以ノモノハ主トシテ同條約成立ニ依リ獨逸軍備平等權ヲ包含スル軍縮ヲ促進シ得ルモノト信シタル結果ニ外ナラサルカ如キヲ以テ「バルトウ」カ先般大戰々死者追悼會參列ノ機會ニ於テ東方「ロカルノ」條約成立ノ結果軍縮交渉開カル、コトハアルヘキモ條約締結ノ條件トシテ軍縮交渉ヲ持込マル、ハ容認スルヲ得スト述ヘタルコトハ獨逸ノミナラス英伊ノ態度ニモ影響セル所アルヘシ但シ佛蘇側ニ在リテハ獨波ノ反對ヲ押シ切リテモ本條約ヲ成立セシムル意圖ナルモノノ如ク最近ノ「ジュルナル」紙ハ獨波ノ加入如何ニ拘ラス本條約ハ本月一杯ニハ成立スヘシト觀測シ居レリ本電別電ト共ニ北京ヨリ天津へ公使ヨリ上海へ轉報アリ度シ

編注 別電第八九三号は見当たらない。なお、同電は、八

月四日発在仏国三谷臨時代理大使より広田外務大臣宛電報第四〇六号(第119文書)と内容である。

121 昭和9年9月2日 在独国永井大使より  
広田外務大臣宛(電報)

独国は東欧ロカルノ構想に反対との同国外務次官の内話について

ベルリン 9月2日前発  
本省 9月2日後着

第一八八號

東歐「パクト」計畫ニ對スル獨逸ノ興(論)ニ現ハレタル態度ハ既電ノ通ニシテ今ヤ同計畫ハ獨逸ノミナラス波蘭ノ反對ノ爲行詰リトナリ從テ佛蘇同盟ヘノ進展ノ可能カ最モ注意セラルルニ至リタルカ東歐「パクト」問題ニ關シ三十一日外務次官カ本使ノ質問ニ對シ述ヘタル要旨左ノ如シ

一、獨逸ハ本來二國間ノ政治的協定ヲ主義トシ「ブロック」政策ニハ根本的ニ反對ス蓋シ「ブロック」ハ之ニ參加スルニ於テハ其ノ參加國ハ「ブロック」外ノ國ニ脅威ヲ與

ノ安全ヲ得テ東亞ニ對セントスルモノナルハ爭フヘカラス從テ東歐「パクト」ハ蘇聯邦ヲ助クルモノナルト共ニ他面佛國ノ歐洲ニ於ケル霸權ヲ樹立セシムルモノニ外ナラス是等ノ理由ニ依リ獨逸ハ本條約ニ同意シ得サルナリ

二、東歐「パクト」計畫ハ當初蘇聯邦カ佛國ニ同盟條約ヲ提案シタルコトニ發端セリ右提案ニ對シ佛國ハ同盟ヲ面白カラストスル意ヲ答ヘタル結果蘇側ハ之ヲ東歐「パクト」案トシテ佛國ニ提示シ佛外相カ英外相ノ贊成支持ヲ得タル次第二シテ英國大使ハ本國ノ訓令ニ依リ右東歐「パクト」案並ニ之ニ關スル英國提案箇條書(佛國ノ同意セルモノ)ヲ「ノイラート」外相ニ提示セリ右ニ對シテハ同外相ハ直ニ英國大使ニ本條約案ハ不侵略義務カ餘リ明瞭ニセラレ居ラサルコトヲ指摘シタルカ同大使ハ之ニ説明ヲ加ヘサリシノミナラス其ノ後英國ハ本件問題ニ關シ獨逸ニ何等申出ヲ爲シ來ラス惟フニ右ハ英國トシテハ條約當事國ニアラサルカ爲ナルヘキ處尙同國ハ獨逸ニ對スル提示ト共ニ駐伊國大使ヲシテ「ムツソリーニ」ニ同様ノ提示ヲ爲サシメタル處「ム」首相ハ即座ニ贊意ヲ表シタル趣ナリ而シテ一方獨逸ハ佛國大使ニ東歐「パクト」案

フルト共ニ是等ノ國ヨリ種々猜疑ヲ受ケサルヲ得サルコトカ獨逸ノ「ブロック」參加反對ノ理由ナルカ此ノ主義上ノ理由ノ外東歐「パクト」計畫ニ關シテハ獨逸トシテ攻撃ヲ受ケル場合波羅的國等小國ノ援助ノ如キハ問題ニアラス唯大國ノ援助ノミナルカ獨逸ハ西方ヨリノ攻撃ニ對シ蘇聯邦軍隊ヲ「ライン」地方ニ入ラシムルカ如キハ絕對ニ爲シ得サル一方東方ヨリノ攻撃ニ對シ佛國カ眞實誠意ヲ以テ獨逸ヲ援助スルコトアリ得ス而シテ獨逸ヨリノ進出ニ付テ考フルニ獨逸ハ西方ニ「ロカルノ」條約ヲ有シ又東方ニ於テハ波蘭ト十年間ノ協定ヲ結ヘリ從テ問題ハ蘇聯邦ノミナルカ獨逸ノ蘇聯邦ニ對スル攻撃ハ波羅的國ヲ越ヘテ之ヲ行フノ外ナク獨逸現在ノ國力ヲ以テ到底斯ル大事ヲ企テ得ス從テ東歐「パクト」ハ獨逸ニ取リ有害無益ナラサルヲ得サル處元來蘇聯邦トノ條約締結ニハ大ナル注意ヲ拂ハサルヘカラス蘇聯邦カ後ニ如何ニ政策ヲ變轉スヘキヤハ全ク豫想シ得ヘカラスシテ平和ノ美名ニ結付ケラレタル東歐「パクト」カ將來平和ヲ害スルコトトナリ得ヘキヲ思ハサルヘカラス蘇聯邦ハ今ヤ平和ヲ必要トスル事情ニアルハ明カナルモ又一面ニ於テ西方

ニ英國提案ヲ取入レタル案ノ提示ヲ求メタルカ今日ニ至ル迄提示ナク又獨逸ハ本件條約ト獨逸平等權ノ關係ニ關シ佛外相ノ演説カ英國側ノ謂フ所ト異リタルモノアリタルニ付佛國ニ説明ヲ求メタルモ其ノ説明要領ヲ得ス

波蘭ハ本件條約ニ到底同意セサルモノト認メラルル處當地知惠古公使ハ本國ノ訓令ニ依リ「ノイラート」外相ニ知惠古ハ本件條約ニ同意スヘキ旨述ヘ獨逸ノ參加方懸懸セルニ付外相ハ同公使ニ於テ條約案ノ内容ヲ熟知シ居ルヤヲ問ヒタルニ同公使ハ本國ヨリ何等通知セラレ居ラストテ困惑ヲ示セリ

尙蘇聯邦ハ曩ニ「リトヴィノフ」當地通過ノ際外相ニ本件條約ヲ提言シタルニ對シ外相之ヲ拒否シタルカ爾來蘇聯邦ヨリ何等申出無シ

三、獨逸ハ平等權カ實際ニ認メラルルニ於テハ或ハ聯盟ヘノ復歸ヲ考量シ得ヘキカ如キモ蘇聯邦ノ聯盟加入ハ將來ニ大ナル危険ヲ與ヘサルヲ得ス從テ蘇聯邦カ聯盟ニ加入スル以上獨逸トシテ最早復歸ヲ全然問題トシ得サルニ至ルヘキ處蘇聯邦ノ加入ハ恐ラク實現セラルヘシ而シテ其ノ場合ニハ獨逸ノ東歐「パクト」反對ニ對スル非難ハ佛蘇

ヲ中心トシテ益々高メラルヘキヲ以テ獨逸政府ハ之ニ先  
チ來週中何等カノ方法ニ依リ東歐「パクト」ニ對スル態  
度ヲ公表スルコトトナルヘシ云々  
英、佛、伊、露、波蘭、知恵古、壽府へ暗送セリ

(欄外記入)

本件ニ關シ東京ニ於ケル事情ハ簡單ニ電報可然

122 昭和9年9月2日

在独国外務大臣宛(電報)  
廣田外務大臣宛(電報)

東欧ロカルノ条約に關する仏國案および英國  
案を独国外務次官より提示について

ベルリン 9月2日後發  
本省 9月2日後着

第一八九號

往電第一八八號ノ談ニ際シ本使ハ日本ハ東歐「パクト」ノ  
局外者ナルヲ以テ本使ノ知ル限り日本政府ハ何處ノ方面ヨ  
リモ案ノ提示ヲ受ケ居ラサルヘキ旨述ヘタルニ次官ハ友邦  
タル日本ニ内示スルニ差支ヲ認メスト述ヘ英國大使ヨリ提

「ロカルノ」條約ニ於ケルト同様ノ保障ヲ佛國ニ對ス  
ルト等シク獨逸ニ與フルノ用意アルヘキモノト認ム  
(二)依テ佛國ハ提案ノ東歐「パクト」ニ關シ獨逸及蘇聯邦  
ニ同様ノ保障ヲ與フル用意アリ  
(三)佛國政府ハスル「パクト」ノ締結及現ニ考案セラレツ  
ツアル相互保障組織ニ對スル獨逸ノ參加ハ總テノ國家  
ニ對スル安全制度内ニ於ケル獨逸ノ平等權ノ原則ノ合  
理的適用ヲ實現スヘキ條約締結交渉再開ニ最良ノ基礎  
ヲ爲スモノト認ムルニ於テ見解ヲ一ニス  
英、佛、伊、露、波蘭及壽府ニ郵送セリ

123 昭和9年9月3日

在ラトヴィア佐久間臨時代理公使より  
廣田外務大臣宛(電報)

東欧ロカルノ構想はソ連の西方国境のみに適用され  
るとのラトヴィア國總務法務局長の内話について

リガ 9月3日後發  
本省 9月4日前着

第五四號

往電第五三號ニ關シ

出ノ文書寫ナリトテ(一)在佛大使發貴大臣宛往電第四〇八號  
ノ文書及(二)英國提案簡條書(何レモ英文)ヲ手交セルカ右ハ  
前記在佛大使往電ト比較シ多少注意ニ値スル點ナリ  
一、佛往電第二ノ一無シ

二、同電第二ノ四ハ締約國ノ或ルモノカ攻撃ヲ行ヒ又ハ其ノ  
脅威ヲ與フル場合ニ關シテノミ佛國カ協議ニ參加スヘキ  
コトトナリ居レリ(因ニ援助協定ハ締約國カ攻撃ヲ爲ス  
場合ト非締約國カ攻撃ヲ爲ス場合トニ分チ締約國ノ協議  
ヲ定メ居レリ)  
而シテ同書ナシ

三、佛往電第三ノ一般的議定書(援助協定締約國及佛國ヲ締  
約國トス)ハ左ノ如ク記サレ居レリ

(イ)援助協定及佛蘇協定ハ平和維持ニ貢獻スル性質ノモノ  
ト認ム

(ロ)右協定ハ聯盟國トシテノ締約國ノ義務及權利ヲ害セス  
(ハ)本件三箇ノ文書ノ效力發生ハ批准及蘇聯邦ノ聯盟加入  
ヲ條件トス

四、英國提案簡條書左ノ通

(一)佛國政府ハ蘇聯邦ハ挑發ナクシテ行ハルル攻撃ニ對シ

一、三日「セイア」局長ヲ往訪確メタル處同官ハ單ニ伊紙發  
表カ東歐協定ニ付關係國間ニ談合セラレツツアル所ト大体  
一致スルコト及「ラ」國政府ニ於テモ未タ「テキスト」入  
手シ居ラサルコトヲ語レルヲ「プリバ、ゼーメ」紙等カ勝  
手ニ敷衍同官談ナルモノヲ作成シタル次第ニシテ又伊紙通  
信員カ協定内容ヲ當地孰レノ方面ヨリ入手セルヤ同官ニ於  
テモ判知シ得ス恐ラク東歐協定ノ具體的「テキスト」ハ未  
タ存セサルニハアラサルカト考フル旨答ヘタリ

二、依テ本官ハ日露戰爭ハ絕對ニ有リ得スト確信スル所理論  
上露側ノ我方又ハ滿洲國攻撃ニ依リ戰爭トナリタル場合ヲ  
假定センニ露側カ我方ヨリ攻撃セラレタリト東歐協定參加  
國ニ訴フトセハ今次伊紙發表ニ依レハ協定參加國カ第三國  
ヨリ攻撃セラレタル場合(攻撃カ準備セラルル場合ニ付テ  
モ規定アリ)ノ援助其ノ他ニ付規定セラルル故「ラ」國モ  
露側ニ同情的ニ右問題ニ關係スルコトトナルカ如キ結果ヲ  
生セスヤ日「ラ」關係ハ極メテ親善ニシテ一點ノ暗雲ナキ  
ニ拘ラス右ノ如キ結果ヲ來ストセハ甚タ不都合ナルヘシト  
述ヘタルニ局長ハ同官ノ知レル限り東歐協定ハ露國ノ西境  
ニノミ關係アルモノナレハ右ノ如キ心配全然無シト確言セ

冒頭(往電)ノ通り轉電セリ

124 昭和9年9月6日 在ポーランド伊藤公使より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の連盟加入問題および東欧ロカルノ構想  
等に対するポーランド側意向につきベック外  
相より聴取について

ワルシャワ 9月6日後発  
本省 9月7日前着

第七三號(極秘)

「ベック」外相ノ聯盟出席前ニ話シ置クコト有(利)ト存シ  
五日往訪

一、本使ハ先ツ往電第七一號ノ如ク最近當國新聞紙上日蘇開  
戦ニ關シ頻リニ論議セラレツツアル事實ニ言及シ右カ必  
スシモ真相ニアラサル旨ヲ述ヘ北鐵交渉ノ經過及其ノ他  
ノ事件ニ關スル我方ノ立場ヲ説明シタル處「ベ」外相ハ  
自分一個ノ考トシテハ北鐵交渉ノ如キ日本政府ニ於テハ  
必スヤ適當ノ解決方法ヲ見出サルモノト思考シ居レリ

ト答へ

二、次ニ本使ハ蘇聯邦ノ聯盟加入問題ニ關シ英、佛、伊ノ共  
同申入ニ言及シ右ニ依レハ曩ニ「ベ」外相トノ會談後  
(往電第六八號)ニ於テ態度ヲ變更セルモノト察セラ  
ルル處其ノ後ノ情報入手セラレタリヤト問ヒタルニ同外  
相ハ三國ノ措置ハ佛ノ發案ニ基クモノニシテ其ノ裏ニハ  
蘇カ佛政府ニ對シ多數國カ賛成ナルニ於テハ聯盟加入ノ  
意思アルヲ漏ラシタルモノト思考スト述ヘ

尙本件ニ關シ主義上ノ問題ハ別トシ聯盟總會開會ノ間際  
ニ押迫ツテ何等ノ理由モ附セス單ニ蘇ノ聯盟加入カ實現  
ノ可能性アリトテ波蘭政府ノ意嚮ヲ求ムル如キ遣口ニハ  
自分トシテハ餘リ感心出來スト不滿ノ意ヲ表シタルニ付  
本使ハ曩ニ會談ノ折開陳シタル蘇聯邦加入ノ場合生スヘ  
キ困難ナル諸點ニ關シ三國ノ申出中ニ言及シアリヤト質  
シタルニ「ベ」外相ハ實ハ是等ノ諸點ニ觸レ居ラサルニ  
依リ壽府ニ於テ三國政府ノ責任者ニ充分説明ヲ求メタル  
上ナラテハ波蘭政府ノ意見ヲ決定シ能ハサル次第ニテ未  
タ回答ヲ爲シ居ラスト答ヘタリ

三、東方「パクト」問題ニ關シ「ベ」外相ハ英國ノ新追加ヲ

以テスルモ波蘭政府ノ政策ニ合致セサル處アルヲ以テ本  
件ニ關シテモ壽府ニ於テ關係國責任者ト意見ヲ交換シタ  
ル上ナラテハ波蘭政府トシテハ諾否ヲ決シ能ハサルコト  
前回會談ノ際ノ狀況ト大差無シト述ヘタルニ付本使ハ東  
方「パクト」ハ蘇ノ聯盟加入ノ場合ニハ效果殆ト無キコ  
トトナルノミナラス日獨兩國ニ對シ蘇ヲ援助スル結果ト  
ナルモノナレハ却テ國際平和と上面白カラストテ「ベ」外  
相ノ注意ヲ喚起シ置ケリ  
壽府へ轉電シ英、佛、獨、「ラトビヤ」へ暗送セリ

125 昭和9年9月10日 在ジュネーヴ横山國際會議事務局長代理  
兼總領事宛(電報)

連盟總會參集の各國代表よりソ連の連盟加入お  
よび東欧ロカルノ問題に關シ情報収集方訓令

本省 9月10日後3時0分發

第一一六號

今次總會ノ機會ニ於テ「ソヴィエト」聯邦ノ聯盟加入問題  
及東方「パクト」案等ニ關シ貴地參集ノ各國代表間ニ各種  
重要ナル私的會談行ハレツ、アルモノト推測セラル右ニ關

シ聯盟事務局其ノ他ニ就キ情報蒐集ノ上隨時電報アリ度シ

126 昭和9年9月10日 在ジュネーヴ横山國際會議事務局長代理  
兼總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の連盟加入問題に対するポーランド等の  
異議について

ジュネーヴ 9月10日後發  
本省 9月11日前着

第一一六號

蘇ノ聯盟加入ニ難色アル理事國ハ波蘭、葡萄牙、亞爾然丁  
ノ三國ニシテ波蘭ハ少數民族問題ニ付テノ聯盟國ノ義務ハ  
蘇ニモ及ホスコトヲ條件トシ且蘇ヲ常任理事國トセハ波蘭  
モ之ニ均落スヘキヲ希望シ葡ハ主義上加入ヲ喜ハス亞爾然  
丁ハ加入ニハ異議ナキモ一般的常任理事國制度ヲ廢止ス  
ヘシトノ意見ヲ有シ居レル旨傳ヘラレタル處「バルツ」  
ハ七日來壽以來「ベック」其ノ他ト會談シ説得ニ努メ葡及  
亞ハ反對セサルコトナリタルモ波ハ容易ニ説得セラレス  
波、蘇聯ノ直接交渉ヲ行フコトナリタル趣ナリ八日午後  
秘密理事會ニ於テ加入問題ヲ議スルコトナリ居タル處十

日午後ニ延期セラレタルカ右ハ直接交渉ノ結果ヲ待ツ爲ナ  
リト解セラレ居レリ尙「バルツ」ハ加入手續ニ關シ土、  
獨加入ノ例ニ據ラントスルモ瑞西ノ加入反對ノ爲總會ニ於  
テ全會一致ノ招請狀ヲ發シ得サルヲ考慮シ聯盟ノ世界平和  
事業確保ノ爲大國蘇ノ協力ヲ希望スル趣旨ノ招請狀ニ贊成  
國署名ヲ求メ贊成國ヨリ招請スルノ形式ヲ執ルコトヲ考案  
シ英、伊等ノ贊成ヲ得タリト言フ  
米、波蘭へ轉電セリ  
在歐洲各大使、瑞西、知恵古へ暗送セリ

127 昭和9年9月11日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理  
兼総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の連盟加入問題に対するポーランドの異議  
取消について

ジュネーヴ 9月11日後発  
本省 9月11日後着

第一八八號

往電第一八六號ニ關シ

十日總會後理事會ハ秘密私的會合ヲ行ヒ「ベック」ハ波蘇

米、波蘭へ轉電シ、在歐各大使及瑞西、知恵古へ暗送セリ

128 昭和9年9月15日

在獨國永井大使より  
広田外務大臣宛(電報)

少數民族問題に關するポーランド外相声明な  
ど連盟の現状に關する獨国紙論調について

ベルリン 9月15日後発  
本省 9月16日前着

第二〇〇號

少數民族問題ニ關スル波蘭外相ノ壽府聲明ニ對シテハ當國  
新聞ハ條約ノ神聖ハ適用不能ノ規定ノ改正ニ依テ害セラ  
ルニ非サルニ拘ラス佛國及聯盟ハ之ヲ阻止シタル結果波蘭  
今回ノ措置ヲ見ルニ至リタリトシ佛國及聯盟ハ「ヴェルサ  
イユ」條約ヲ永續化セントスルモ此ノ政策ハ現實政局ノ變  
轉ニ依リ崩壞セサルヲ得スト述ヘ居ル處十五日外務省半官  
論説ハ少數民族問題ノ國際的調整ハ今日ノ波蘭ニ取リ國家  
ノ威信及平等權ニ關スル問題ナルコトヲ擧ケタル後小協商  
ハ少數民族保護ノ一般化ヲ欲セス又常ニ條約ノ改正ニ反對  
シツアルニ拘ラス自己ノ帝國主義的目的ニ合スルト見ル

直接交渉ノ結果尙技術的問題ニ付處理スヘキ點アルモ波ハ  
原則トシテ蘇聯ノ聯盟加入及常任理事國タルコトニハ異議  
ナキヲ聲明シ理事會ハ葡及亞爾然丁ノ棄權ヲ除キ滿場一致  
蘇聯ニ常任理事國ヲ與フルコトノ假決定ヲ爲シタルカ加入  
招請ノ形式總會ニ附議セラルル手續ニ付議論紛糾シ十一日  
午前更ニ總會幹部會(秘密)ニ於テ附議ヲ續行セルモ未タ纏  
マラス傳フル所ニ依レハ十日理事會ニ於テ招請案文ニ付原  
案ニ蘇聯カ國際義務ヲ遵守シ國際條約ヲ尊重シ聯盟國タル  
ノ條件ヲ充タセリトアルニ對シ濠洲代表「プリユウス」ハ  
蘇聯ニ斯ル國際道德ノ證明書ヲ與ヘ得スト聲明シ討論ノ未  
結局新案文ヲ作成スルコトナリタルカ其ノ際「サイモン」  
ハ招請狀ハ蘇聯ニ聯盟加入ヲ招請セス加入ノ要求ヲ爲スコ  
トヲ招請スヘシトノ意見ヲ述ヘ新案文モ此ノ趣旨ニ依ラン  
トスルモノノ如シト謂フ  
他方「ベック」ハ「バルツ」トノ私的會談ニ於テ波ハ蘇  
聯ノ聯盟加入ニ付異議ヲ挾マサルモ代價的ニ東方「パクト」  
ヲ拋棄セントコトヲ求メ佛モ之ニ同意シタルカ佛ノ面目問題  
モアリテ此ノ點ハ表面化セサルコトヲ約シタル由傳フルモ  
ノアリ

ヤ直ニ波蘭ニ同意セル處小協商及佛國ハ自己ヲ聯盟ト一帯  
化シ居ルヲ以テ困難ナル立場ニ立タサルヲ得スト爲シ聯盟  
ノ任務タリシ軍縮ハ最早殆ントナラス委任統治制度  
ハ日本ノ聯盟脱退ニ依リ其ノ前提條件ヲ變セシメラレタリ  
仲裁裁判制度ハ蘇聯邦ノ聯盟加入ニ依リ破ラルヘシト述ヘ  
タリ  
佛、波、「チエ」、羅馬尼、壽府ニ郵送セリ

129 昭和9年9月17日

在廣東服部(恒雄)總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の連盟加入後の新情勢に対する中国紙の  
報道振りについて

廣東 9月17日後着  
本省 9月17日後着

特情 廣東第五號  
陳濟棠氏カ最近發刊シタ公道日報ハ「蘇聯ノ聯盟加入後ノ  
新形勢」ト題シ左ノ如ク論ジテ居ル  
聯盟ハ平和維持機關トシテ最高ノ權力ヲ具有スルモノトサ  
レテ居タガ侵略國家ニ對シ有效ナル制裁ヲ加ヘ得ズ又弱小

民族ニモ積極的援助ヲ敢テ爲ス事ナク公道正義全ク地ニ墜チ聯盟ハ瀕死ノ病人タル觀ヲ呈シテ居タ、然ルニ世界ニ於テ重要ナル地位ニアル蘇聯カ聯盟ニ加入シタ事ハ強心劑ヲ注射シタヤウナモノデ聯盟ハ其ノ力ヲ強メル事トナラウ更ニ之ハ歐洲ノ國際的危機ヲ緩和スル事ニナルベク即チ蘇聯カ聯盟ニ加入スル動機ハ佛國ト聯繫シテ獨逸ヲ制スルニアラウト思ハルルカ其ノ意義ハ佛國集團ノ強化サレルニ反シ獨逸集團ノ孤立ヲ表示スルモノデアル故ニ獨逸ハ不利ノ形勢ニアルヲ見敢テ輕舉妄動ニ出デザルベク從ツテ當分歐洲政局ハ安定スルデアラウ、然シ茲ニ注意ヲ加フベキ事ハ蘇聯ノ聯盟加入ニヨリ必然的ニ極東ノ不安ガ一層險惡化サレルコトデ蘇聯ハ獨逸ニ對スル後顧ノ患ナキニ至リ今後ハ全力ヲ盡シ日本ニ對應スル劃策ニ努ムベク又日本ハ蘇聯ニ對抗スル爲メ英國ヲ籠絡シテ兵力ノ増加ヲ圖ルドラウ

130

昭和9年9月18日

在ジュネーヴ横山國際會議事務局長代理  
兼総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

連盟總會におけるソ連の加入および同国に對する常任理事国の地位付与決議について

ソ連の連盟加入、東欧ロカルノおよび少数民族問題に関するポーランド側意向につきベック外相より聴取について

ジュネーヴ 9月22日前発  
本省 9月22日前着

第二〇七號

九月二十日午後波蘭外相ヲ往訪セル處蘇聯邦ノ聯盟加入、東方「バクト」及少数民族保護問題等ニ關シ詳細ノ説明ヲ受ケタリ其ノ大要左ノ通

一、波蘭ハ四五年前東北國境ニ關シ蘇聯ノ脅威ヲ受ケ且西方「コリドール」ニ關シ獨逸ノ壓迫ヲ感シ聯盟殊ニ西歐列強ノ援助ヲ期待セルニ結局種々ナル懸引外交ノ犠牲トナルノ惧多ク頼ミ甲斐ナキコト判明セル爲爾來斷然隣接國トノ直接交渉ニ依リ事態緩和策ニ邁進シ漸ク最近ニ至リ善隣關係ノ確保ニ成功セル始末ナルヲ以テ此ノ現状維持カ目下自分ノ外交ノ根本的方針ナリ

二、依テ過日佛外相ヨリ蘇聯招待ニ關シ相談ヲ受クルヤ自分ハ一方同外相ニ對シ蘇政府ハ聯盟加入後無條件無留保ニ聯盟國トシテ一切ノ義務ヲ負フヘシトノ保障ヲ與ヘタル

ジュネーヴ 9月18日後発  
本省 9月19日前着

第二〇一號

往電第二〇〇號ニ關シ

十八日午後總會ハ四十九ノ投票國(暹羅、巴奈馬等缺席)中三十九ノ贊成和蘭、瑞西ノ反對亞爾然丁、白耳義、玖馬、「リュクセンブルグ」「ニカラガ」秘露、「ベネゼラ」ノ棄權ヲ以テ蘇聯ノ加入ヲ採決シ且五十ノ投票國中四十ノ贊成十ノ棄權ヲ以テ蘇聯ニ常任理事國附與ノ採決ヲ爲シタルカ次テ蘇代表「リトビノフ」「ボチエムキン」等出席シ議長ノ挨拶ニ答ヘ「リ」ヨリ答禮ヲ爲シ蘇聯ト聯盟トノ過去ノ歴史ヲ概述シ蘇聯ノ平和的意圖ニ付手前味噌ヲ並ヘタル後軍國ノ妄動ニ依リ戰爭ノ危險迫レル今日聯盟國ハ一層有效ナル手段ヲ講シテ世界ノ平和ヲ確保セサルヘカラサル旨ヲ力説セリ  
在歐米各大使へ郵送セリ

131

昭和9年9月22日

在ジュネーヴ横山國際會議事務局長代理  
兼総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

ヤト問ヒ他方蘇政府ニ對シ聯盟加入後モ波蘭トノ既存關係ヲ變更セサル意思ナルヤヲ確メ雙方ヨリ肯定的確答ニ接シタル後始メテ同意ヲ表シタル譯ニテ自分ノ回答カ後レタルハ決シテ懸引等ヲ試ミタル結果ニアラス

三、次ニ東方「バクト」ハ前述ノ通直接相手國トノ協定ニ依リ充分ニ安全感ヲ保持セル波蘭ニトリテハ屋上屋ヲ架スルニ過キス又地方協定ト稱スル以上其ノ締約國ハ地理的ニハ北ハ芬蘭ヨリ南ハ土耳其迄ノ蘇聯接壤諸國ヲ含ミ政治的ニハ共產主義國ニ對シ資本諸國ヲ集ムヘキニ該提案ハ其ノ何レニモ合致シ居ラス甚タ曖昧ノ點多ク自分ハ先ツ主義上ヨリ之ニ絶對反對ナリ又實際上ニモ之カ實現ニハ種々ノ困難ヲ伴フニ付成立不可能ナラント思ハル

四、少数民族保護問題カ波蘭ニトリ屈辱的ナルハ御承知ノ通ニテ此ノ儘之ヲ放置シ得ス元來少数民族保護ハ憲法上ニモ既ニ充分ナル保障ヲ與ヘ居ル故ニ自分ノ主張ハ實質的ニハ毫毛條約違反ノ結果ヲ生セス單ニ其ノ大要ニ關シ不平等待遇ヲ排除セントスルノミナリ

五、(今回突然總會ニテ本問題ヲ提起セラレタルハ今回蘇聯ノ加入後曾テ獨逸ノ加入後ニ於ケルト同様ノ事態ヲ生ス

ヘキヲ惧レタルニ依ルヘシトノ想像ハ當レリヤトノ問ニ對シ本問題ハ多年ノ懸案ナル故ニ突然ノ提案ト言フハ當ラサルモ蘇聯カ隣接國タルコトハ勿論考量ニ容レラレタリ

(目的ノ貫徹至難ノ場合ノ善後策如何トノ問ニ對シ)今回ノ主張カ容レラレサル場合ニハ聯盟トノ協力不可能トナルヘク然シ列國トノ正解ヲ得ル様全力ヲ盡ス積ナリ在歐米各大使、知恵古、波蘭へ轉電セリ

132

昭和9年9月25日  
在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理  
兼總領事宛(電報)

連盟總會参加のため参集中の各国代表より滿州問題、日ソ関係および日貨進出問題につき意見聴取の際には回報ありたき旨訓令

本省 9月25日午後5時30分發

第二二八號

十八日ノ總會ニ於ケル「リトヴィノフ」ノ演説要旨電報アリ度シ

尙總會議事ニ關スル通信社等ノ報道ハ必スシモ正確ヲ期シ

ハ新國家ニシテ政治及社會組織ヲ他ト異ニセル爲其ノ創設ノ當初ニ於テハ他ノ反感ヲ買ヒ軍事的干涉ヲ受ケタリ聯盟創設ノ際ニハ將ニ蘇聯人民ハ内部組織ノ自由及外部の獨立ノ爲戰ヒタルカ軍事の干涉ヲ排シタル後ト雖外部の反感ハ種々ノ程度及形式ニテ現ハレ蘇聯人民ハ聯盟諸國カ反蘇結合ヲ爲スヲ恐レタリ他國政治家中ニハ此ノ計畫ヲ有シタル者尠カラサリシモ過去十年ノ歴史ニ於テ國際間ノ利害ノ衝突經濟危機ノ連續並ニ蘇聯ノ眞價ハ右カ迷夢ニ過キサルコトヲ明カニシ今日廣大ナル精神ヲ有スル政治家指導的國家ノ代表者中ニハ蘇聯孤立ノ政策ヲ考フル者ナキニ至レリ聯盟創設ノ際蘇聯之ニ参加シ居ランニハ例ヘハ或場合ニ戰爭ヲ合理化スル第十二條及第十五條並ニ委任制度ヲ規定スル第二十二條及第二十三條ニ人種平等ヲ確保スル約束ナキコトニ對シ反對シタルヘキモ是等反對ハ蘇聯ヲシテ聯盟ヲ避ケシムル程ノ重要性ヲ有セス元來國家聯合ノ思想ハ蘇聯ノ思想トモ適合スルモノニシテ蘇聯ハ最良キ意味ニ於テ一ノ國際聯盟ヲ現ハス蘇聯中ニハ人種の偏見モ少數民族問題モナク「ナシヨナリテ」ニ關スル蘇聯ノ政策ニ付テハ敵味方等シク之ヲ嘆賞ス國家ノ聯合形式ノ根本條件ニアリ

難キニ付直接間接我方ニ關係アリト認メラル、事項ハ其ノ都度電報アリ度ク又今次總會ヲ機トシ貴地ニ集合ノ各國代表ト接觸ノ際滿洲問題日蘇關係及日貨進出問題等本邦ニ關係アル問題ニ付批判又ハ意見等御聞込アラハ隨時電報アリ度シ

在蘇大使ニ轉電セリ

133

昭和9年9月25日  
在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理  
兼總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の連盟加入決議後におけるリトヴィノフの演説について

ジュネーブ 9月25日發  
本省 9月26日着

第二二三號

十八日「リトヴィノフ」ノ一時間半ニ亘ル長口舌ノ大要左ノ通

蘇聯宛招請狀及總會理事會ニ於ケル表決ニ依リ余ハ僅ノ例外ヲ除キ凡テノ代表カ蘇聯聯盟加入ノ重要性ト之ヨリ期待シ得ル喜フヘキ結果ヲ了解スルモノナルコトハ確信ス蘇聯

其ノ一ハ各國ノ獨自性及其ノ社會經濟制度ヲ保持スルノ自由即チ内政不干涉ノ原則  
其ノ二ハ共同目的ノ存在ナリ  
一ニ付テハ右原則ハ既ニ認メラレタルモノト云フヘク蘇聯ハ聯盟ニ入り其ノ獨自性ニ關シ何等變更ヲ加フルモノニ非ス

二ニ付テハ蘇聯ハ夙ニ文化經濟諸問題ニ付諸國並ニ聯盟ト協力シ來リ政治問題ニ付テハ安全保障ヲ増シ平和ヲ強固トスル努力ニ對シテハ協力ヲ拒ミタルコトナク右ハ軍縮準備委員會及軍縮會議ニ於ケル蘇聯ノ態度ニ依リテ明カナリ然レトモ最近二、三年來ノ事態ハ蘇聯及聯盟間ニ一層緊切ナル協力ノ有效ニシテ必要ナルヲ實證シ聯盟諸國ハ蘇聯カ國際平和上強力ナル一要素ナルヲ認メ之ト協力ノ必要ヲ看知シ蘇聯ハ又聯盟國カ侵略的軍閥者流ニ對シ平和維持ノ爲ニ戰ヘルヲ認メ且侵略者流ハ聯盟ノ後見ヲ煩シトシ其ノ約束ヲ免レント試ミタルヲ認メタルカ故ニ茲ニ兩者間ニ重要ナル共通目的ヲ生スルニ至レリ戰爭ノ危險ハ曾テハ理論ニ過キサリシモ今ヤ其ノ危險ハ明日ニ逼レリ平和ノ組織ハ單ナル決議聲明ニ依テ確保セラルルモノニ非ス今日歐羅巴及亞

細亞ノ地圖ヲ劍ニ依テ變更セントスル戦争等ハ紙片ニ依テ之ヲ防壓スルヲ得ス

吾人ハ今ヤ一層有效ナル方法ニ依リ戦争ヲ豫防スルコトヲ研究セサルヘカラス軍縮會議ノ失敗ハ益々以テ此ノ必要ヲ感セシム余ハ戦争豫防ノ一層有效ナル方法ニ關シ今詳細ニ之ヲ述フルノ期至レリト思考セサルモ總テノ國家カ其ノ隣國ヨリ安全ノ保障ヲ要求スルノ權利ヲ有シ且右要求ハ不信ノ念ノ表現ト思考セラレサルコト必要ナルヘシ明白ナル良心ヲ有シ何等侵略的意圖ヲ有セサル政府ハ相互ニ有效ナル保障ヲ與ヘ且完全ナル安全感ヲ保障スルコトヲ拒ミ得サルヘシ

余ハ元ヨリ聯盟カ平和ノ保障ニ對シテ與ヘ得ル限度ヲ買ヒ被フル者ニ非ス聯盟ハ戦争ヲ完全ニ廢棄スル方法ヲ有セス然レトモ若シ確乎タル意志ヲ有シ總テノ聯盟國カ密接ニ協力セント欲セハ戦争ノ危険ヲ最少限度ニ減少スル爲多クノコトヲ爲シ得ヘシ

134 昭和9年9月26日

在ジュネーブ横山國際會議事務局局長代理  
兼総領事宛(電報)

筋合ト一般ニ認メラレ居ル處同國代表部ニ於テハ「聯盟員タル諸國カ労働機關ニ加入スルノ義務ヲ「ヴェルサイユ」條約第三八七條ニ規定シアルモ聯盟規約ニ明記シアラス蘇聯ハ聯盟ニ加入セルモ同條約ヲ批准セル譯ニアラス故ニ蘇聯ハ聯盟加入ニ依リ労働機關ニモ加入スルノ權利ヲ得タルモ其ノ義務ヲ負ハルモノニアラス又實際上蘇聯ハ壽府ニ於ケル平和維持ノ機關ニ加入スルコトハ有利ト認メタルモ資本主義擁護ヲ根抵トスル社會組織ノ機關ニ加盟スルコトハ他ノ各國ト全然異ナル原則ニ基ク國內問題ニ對シ干涉ノ道ヲ開クノ虞アル故俄ニ之ヲ決シ得ス」トノ意見ニテ結局本件蘇政府ノ態度ハ「リトヴィノフ」歸國ノ上研究決定ノ事トナルヘシト傳ヘラル

136 昭和9年9月28日

在ジュネーブ横山國際會議事務局局長代理  
兼総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の連盟加入の背景には日本に対する恐怖があるとのスイス国代表の内話について

ソ連の連盟加入の真意につき調査方訓令

本省 9月26日後6時50分発

第一三〇號

往電第一一六號ニ關シ

蘇聯邦ノ聯盟加入ノ動機ニ關シテハ種々ノ觀測ヲ下シ得ヘキ處同國カ東歐「バクト」ノ不成立ヲ見越シ乍ラ小國側ノ反對ヲ押切り聯盟加入ヲ敢行シタル眞意ニ關シ總會出席ノ爲貴地ニ參集ノ各國代表若ハ聯盟主腦部ニ於テ下シツ、アル觀測御聞込ノ節ハ電報アリ度シ  
在蘇聯邦大使ニ轉電セリ

135 昭和9年9月27日

在ジュネーブ横山國際會議事務局局長代理  
兼総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の國際労働機關加入可能性に関する同國連盟代表部の見解について

ジュネーブ 9月27日後発

本省 9月28日前着

第二二〇號

聯盟加入後蘇聯ハ當然國際労働機關ノ一員ト看做サルヘキ

ジュネーブ 9月28日後発  
本省 9月29日前着

第二二八號

貴電第一二五號ニ關シ(支那理事國落選原因調方ノ件)

二十八日瑞西代表部事務總長ト會談ノ際同人ハ瑞西ハ支那代表ノ運動アリタルモ理事會國ハ醫者タルヘクシテ病人タルヘカラサルニ支那ノ混亂狀態ハ依然タルモノアリ殊ニ支那ノ策動ニハ既ニ飽々セルヲ以テ反對投票セリ又「モッタ」氏ハ日獨兩國ノ復歸ヲ希望シ居レリト語レリ尙貴電第一三〇號ニ關シ蘇聯ノ加入ハ滿洲事件及日本ノ脱退ノ當然ノ歸結ト云フヘク蘇聯ハ日本ヲ恐レル利己的動機ニ基キ加入ヲ決セルニ過キス其ノ平和主義ハ餘リ當ニナラスト考ヘ居ル者各國代表中ニ頗ル多キモ聯盟加入ハ免ニ角蘇聯外交ノ成功ニ相違ナシト思ハルト内話セリ  
在歐米各大使、瑞西へ暗送セリ

137 昭和9年10月2日

在ジュネーブ横山國際會議事務局局長代理  
兼総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

ポーランドによる東欧ロカルノ構想への実質

的拒絶について

ジュネーヴ 10月2日後発  
本 省 10月3日前着

第二三四號

往電第二二七號ニ關シ

十月一日波蘭聯盟局長「ラジンスキー」ノ内話ニ依レハ本件覺書ノ大要左ノ通

先ツ緒言トシテ波蘭ハ蘇獨兩國トノ間ニ數年來直接交渉ノ結果既ニ充分ナル安全保障ヲ取付ケ居レリトテ右交渉ノ經緯成果ヲ敘述シタル後(往電第二〇七號参照)左記四點ニ付佛ノ注意ヲ喚起ス

一、東北協定ハ獨逸ノ参加ナキ限り其ノ目的ヲ達シ得ス波蘭ハ獨逸トノ關係ヲ重要視スルヲ以テ獨波關係ノ基調タル本年一月廿七日ノ獨波協定ノ全文ヲ引用シ之カ適用ヲ確保セシコトヲ要望ス

二、波蘭ト未タ經常的協約關係ナキ國ト共ニ此ノ種ノ協定ヲ締結スルハ至難ナリ(「ビルナ」問題等未解決ノ間「リツアニヤ」ニ對スル協定案ニ豫見セル如キ責任ヲ取り得ストノ意味ナリ)

138 昭和9年10月2日

在ジュネーヴ横山國際會議事務局長代理  
兼總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

ソ連の連盟加入および東欧ロカルノ問題等ニ  
關するポーランド連盟局長の内話について

付 記 昭和十二年十二月十七日発在ポーランド酒匂

(秀一)大使より広田外務大臣宛電報第一五四号

東欧ロカルノ構想に反対するポーランド側極  
秘文書をベック外相より提示について

ジュネーヴ 10月2日後発  
本 省 10月3日後着

第二三五號(極秘)

往電第二三四號ニ關シ

「ラ」ト會談ノ節同公使ハ尙左ノ通り内話セリ

一、支那側ヨリ「結局ハ土耳其古トノ競争ニ破レテモ良キ故切メテ再選丈ケ認メテ賞ヒタシ」ト懇請アリシモ自分等ハ斯ル面子問題ヲ解シ得ス且日本トノ友好關係ヲモ考ヘ反對投票セルカ其ノ後内聞スル所ニ依レハ支那ハ來年ノ三理事國改選ノ際ニモ割込不可能ト認メタル結果日本ノ脱

三「ダニウブ」地方ニ關係アル一國ヲ参加セシムル以上他

ノ國ヲ加入セシメスハ目的ヲ達シ得サル故ニ此ノ點ニ付テハ慎重考慮ノ上ナラテハ意見ヲ表明シ得ス(知惠古ヲ入レテ洪牙利ヲ除外スルハ面白カラス但シ波蘭トシテハ是等ノ問題ニハ深入リヲ避ケ度キ希望ナリ)

四、蘇聯トノ關係ニ付蘇波不侵略條約ノ尊重ヲ確保スヘク侵略者定義ニ關スル八國宣言ヲモ協定中ニ引用センコトヲ希望ス

向本件ニ關シ「ゼロー」ハ佛側ニテハ右回答ハ條件付受諾ニアラス寧ロ體裁良キ拒絶ニシテ十年來ノ佛(波)同盟ニ死ノ宣告ヲ與ヘタルニ等シト考ヘ居リ佛外相ハ從來ノ超慮ヲ打棄テ近々波蘭ニ對シ忌憚ナク質問ヲ發スヘシト昂奮シ居レル旨ヲ語レルカ同局長ハ波蘭ハ獨立早々専ラ佛ノ後援ニ依據セルモ十數年後ノ今日尙其ノ願使ニ甘シ得ス佛波同盟モ東北協定案モ未タ死滅セリトハ言ヒ難キモ佛ノ政策ニハ大ナル心理的缺陷アリト非難シ居タリ

在歐各大使、波蘭、知惠古、埃、暗送セリ



退完了ヲ待チ理事會ニ亞細亞諸國ノ代表皆無ナルハ聯盟ノ普遍性ト矛盾シ不都合ナリトノ理由ヲ以テ半常任ノ特殊地位ヲ要求スル計畫アル由ニテ右ハ去年葡萄牙割込ノ例モアリ實現不可能ニ非ス注意ヲ要ス

三、蘇聯カ急激ニ對聯盟態度ヲ變更セルハ日獨兩國ヨリノ脅威ヲ感シ萬一ノ場合ニハ聯邦内不平分子ノ反亂ヲモ恐ルヘキ立場ニアル爲對歐赤化宣傳ヲモ手控ヘ同時ニ佛國資本ノ利用方ヲ考慮シ獨逸ノ復讐ヲ恐ルル同國トノ提携ニ應シタルナランカ國內ノ重工業發達シ不平分子彈壓力増大セハ何時平和ノ假面ヲ棄ツルヤモ知レス危險多シ

三、東北協定案ニ關シ「バルチック」三國ハ未タ回答ヲ避ケ居ル處過日三國代表等ト意見交換ノ際彼等ハ蘇聯カ何故彼等ノ参加ヲ求メ居ルヤニ付萬一獨逸ト事アル場合蘇軍ノ自由通過ヲ認メシムル爲ナリト解シ其ノ場合ニハ彼等小國ハ蘇獨ノ戰場ト化シ住民ハ共產主義ニ感染シ領土保全ハ夢トナルヘシト述ヘ居リ實ハ波蘭モ輕々ニ同案ニ加入セハ同様ノ危險ヲ冒スコトナル譯ナリ

四、埃太利問題ニ付佛國ハ波蘭ヲモ仲間ニ入レントシタルカ「ベック」外相ハ同問題ハ佛、英、伊及小協商等多數ノ

料理人カ働キ居ル故ニ自分等ハ關與スヘカラストノ意見ナリシ處果シテ彼等ノ間ニ意見合ハス小協商三國間ニスラ仲間喧嘩ノ惧アリタル程ニテ佛伊ノ不一致ハ可成リ大キク此ノ分ニテハ佛外相ノ羅馬訪問モ效果鮮カラント思ハル

在歐各大使、澳、波蘭、知恵古、「ラトビヤ」へ暗送セリ

(付記)

ワルシャワ 昭和12年12月17日後発  
本省 昭和12年12月18日前着

第一五四號(極秘)

豫テノ打合ニ基<sup>(マ)</sup>二十六日「ベック」外相ヲ往訪時餘ニ巨リ會談セルカ主ナル點左ノ通り

一、外相ハ過日御話シセシ極秘文書ノ寫出來セリトテ之ヲ本使ニ與ヘ右ハ三四年九月壽府ニテ作成シ當時佛國外相ニ手交セルモノニテ地域の援助條約案(所謂東方「パクト」)ニ關スル波蘭側ノ反對意見ヲ鮮明ニセルモノナルカ當國ノ外交方針ヲ示スモノニテ該方針ハ今後モ維持セラルヘキニ依リ參考トシテ閱讀ヲ願ヒ置キ度ク要スルニ波蘭ト

ナルニ依リ帝國ハ今日支那ニ於テ人類文化ノ敵タル共產主義ト戦ヒ居ルモノト言フヘキナリ云々ト説キタルニ外相ハ一兩年前國際場裏ノ寵兒ノ如キ感アリタル蘇聯カ最近捨子ノ如キ状態ニ置カルルニ至レルハ日本ノ努力ノ與ツテ力アルコトニテ喜ハシキ次第ナリトシ過日「デルボス」佛外相ハ自分(「ベック」)ニ對シ佛蘇條約ノ不評ヲ啣チ今後佛トシテハ蘇聯ト一切新タナル話合等ヲ爲ササル意嚮ナリト内話セルカ右ハ日本側ニ於テ興味アルヘキニ依リ敢テ御話シスト附言セリ

四、本使ヨリ未タ政府ノ意嚮ヲ確メタル次第ニアラスト前提シ日波間學生交換ニ一步ヲ進メ兩國間ニ文化協定ノ如キモノヲ取結フ考案ニ付外相ノ意見ヲ求メタルニ外相ハ主義上贊成ナリト答へ關係方面ノ意嚮ヲ徴シ置クヘシト述

ハタリ  
五、更ニ本使ヨリ一二ノ例ヲ擧ケ兩國間ノ通商發展ノ爲考究スヘキ餘地多々アルカ如シト言ヘルニ外相ハ同感ナルニ依リ日本側ヨリ提案アラハ喜ンテ考慮スルノ用意アリト答へ尙本使ノ問ニ對シ十五日公文ノ交換ヲ爲セル蘇波間通商取極ハ單ナル技術的ノモノニシテ有効期間モ三箇月

シテハ兩隣ニ性質ヲ異ニシ相反目スル強敵ヲ控ヘ居ル關係上其ノ何レヨリモ反感ヲ招カサルヲ旨トシ利害關係アル國トハ個別的ニ協定シ如何ナル思想的乃至政治的「プロック」ニモ加入セサルコトカ故「ピルスドスキー」元師時代以來ノ方針ナリトノ趣旨ヲ縷述シ此ノ點日本側ニ於テ諒察セラレンコトヲ望ムト結ヒタリ(該文書寫ハ幸便ニ依リ托送スヘシ)

二、本使ノ問ニ對シ外相ハ伊ノ聯盟退ハ豫期セシ所ナルカ元來波蘭カ聯盟ニ加入シ居ルハ聯盟カ一般的平和集團機構ナルカ爲ナリ從テ其ノ一般的性質カ薄ラキ一種ノ「プロック」化スルニ於テハ波蘭トシテモ其ノ態度ヲ再検討セサルヲ得サル次第ナリ之迄トテモ聯盟ハ波蘭ノ利害關係アル問題ノ一半ヲスラ解決スルヲ得サリシカ今後ハ國際會議ノ價值減少シ個別的商議ノ時代ニ入ルモノト思考スト述ヘタリ(往電第一五二號參照)

三、外相ヨリ日支事變ニ言及シ帝國カ益々強大トナランコトヲ望ムト言ヘルニ依リ本使ハ該事變カ抗日分子ノ挑戰ニ對スル帝國ノ自衛的措置ニ基クモノナルコトハ今更申ス迄モナキモ右抗日分子ハ共產主義ノ勢力ト合體セルモノ

ニ過キスト答ヘタリ  
在歐各大使(土ヲ除ク)へ暗送セリ

139 昭和9年11月26日 在仏國三谷臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

東欧ロカルノ構想、ザール問題等への仏國の対応に関する諸情報について

パリ 11月26日後発  
本省 11月27日後着

第五四五號

廿六日諜報者ノ佛國外政諸問題ニ關シ内報スル處左ノ通(一)往電第五四三號東歐「パクト」對波蘭回答ハ波蘭カ「リツアニア」知恵古ノ國境ヲ保護スルヲ欲セサルニ於テハ右ノ點ハ留保スルコトトシテ「パクト」案ニ對スル贊否ヲ明答センコトヲ希望シタルモノ即チ同案ノ成否ニ關スル責任ヲ波蘭ニ取ラセントスルモノナリ獨逸ニ對シテハ波蘭ノ回答ヲ待チタル上改メテ交渉スル建前ナリ又「ベネシユ」ハ波蘭カ知恵古國境ヲ保障セサルモ「パクト」ニ贊成スル意向ナリ

(二) 往電第五四四號末段ノ打消發表前佛國外務省カ在巴里露  
國代理大使ト打合せタルトキ同人ハ右打消ノ後ニ「併シ  
議會ノ大勢ハ佛蘇軍事同盟ヲ希望シツツアリ」トノ趣旨  
ノ一句ヲ挿入センコトヲ希望シタルカ外務省ニ於テ反對  
セリ現在ノ所兩國間ニ軍事同盟ナキハ事實ナルノミナラ  
ス「ラバール」外相ハ慎重ニシテ佛蘇關係ハ「バルト」  
時代ニ比スレハ極メテ弱キ感シ乍ラ少シク後退セルヤノ  
感アリ此ノ點ニ付同人ト「エリオ」トノ間ニ折々議論ア  
ル位ナリ在巴里露國大使「ドフガレフスキー」ノ後任ニ  
ハ現駐伊大使「ボテムキン」カ任命サルルモノノ如シ又  
政變ノ爲延期トナリタル商務大臣ノ訪蘇モ近ク實現ヲ見  
ルヘシ

(三) 馬耳塞暗殺事件ノ聯盟附議ニ付佛國政府トシテハ過去ノ  
論議ヨリハ寧ロ將來聯盟國カ「テロリズム」ヲ國內ニ於  
テ幫助セサル約束ヲ爲スト言フ方面ニ力ヲ注クヘシ伊國  
政府カ「クロアイト」「テロリスト」團「ウスターチャ」  
ヲ幫助シタルハ事實ナルモ(往電第五二九號參照)同政府  
ハ馬耳塞事件前六個月間ハ右幫助ヲ中止シ居リタリ  
(四)「ザール」問題ニ付佛國政府ハ成ルヘク羅馬ノ三人委員

會ニ於テ問題ヲ解決シ理事會ニテハ單ニ其ノ決定ヲ其ノ  
儘採擇シ餘リ公會ノ席ニテ啞合ハヌコトヲ希望ス  
佛國政府側ニハ「プレビシット」ニテ或ル割合迄現狀維  
持希望ノ表明アリタル場合ニハ五年乃至十年後迄決定的  
「プレビシット」ヲ延期スル案モ考ヘタルカ「ラバール」  
外相ハ右ノ如ク解決ヲ延期シ若ハ「プレビシット」ノ結  
果カ現狀維持トナルトキハ「ザール」問題カ佛獨間ニ殘  
リテ面白カラス又佛國側ノ鑛山ニ對スル投資モ實際上ハ  
大体回收シタルニモ顧ミ寧ロ此ノ際佛國側トシテハ同地  
域ノ獨逸ニ歸ルコトヲ邪魔セサル考トナリタリ唯困ル問  
題ハ獨逸カ鑛山買戻シノ金ヲ仲々支拂ハサルヘキコトナ  
リ尙「プレビシット」ノ結果ニ付一般ニ同地域ノ左派分  
子即チ四割迄位ハ現狀維持ヲ希望スヘキモ殘ル六割ハ少  
クトモ獨逸復歸ヲ希望スヘシト觀測シ居レリ  
在歐各大使、壽府、「チエコ」、波蘭、羅馬尼、「ラトビヤ」  
ニ暗送セリ

140 昭和9年11月28日

在仏國三谷臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 仏ソ相互援助条約交渉の進捗状況に関する情 報について

付記 十二月七日癸在独國大島大使館付武官より杉

山參謀次長宛電報第四五号

独國国防省側より入手した日ソ開戦に際して

は仏國はソ連を援助せずとの情報について

パリ 11月28日後発  
本省 11月29日前着

### 第五四七號

諜報者ノ内報ニ依レハ廿六日「ラバール」外相及在當地露  
國代理大使「ローザンベルグ」トノ間ニ兩國ハ東歐「パク  
ト」案交渉ノ繼續スル間ハ同案ノ他ノ關係國ノ何レトモ政  
治的交渉ヲ爲サス政治協定ヲ作ラサル事ヲ相互ニ約束スル  
「プロトコール」ヲ署名シタル由ニテ右ハ東歐「パクト」  
案交渉進捗セサル爲露國側ニテ焦慮シ居ルニ鑑ミ佛國外務  
省ノ「テクニシアン」連ガ發案シタルモノニテ之ニ依リ佛  
國側ハ佛獨直接交渉ヲ爲サス他方露國側モ「ラツパロ」條  
約ノ二ノ舞ヲ爲ササルコトヲ約束セルモノナリトノコトナ

リ(以上極秘)當地新聞ハ數日來十二月半ハ頃ニ *Engels* 及  
*De Ribbentrop* カ巴里ニ來ルヘシト傳ヘ居リ廿七日ノ  
「ウーブル」ノ如キハ兩人ハ「ザール」問題解決後獨逸ノ  
聯盟復歸及佛獨接近等ニ關シ提案スヘシト報道シ居リタリ  
尙羅馬尼外相「チチュレスコ」及土耳其古外相「テウフイツ  
ク、ルシデイー、ベイ」ハ廿六日以來夫々當國首相外相等  
ト會談シ當地新聞ハ一般ニ東歐「パクト」及「マルセイユ」  
暗殺問題等ヲ話合ヒタルモノト傳ヘ居レルカ右ニ關シ諜報  
者ハ「ラバール」外相ノ羅馬訪問ハ聯盟ニ於テ「マルセイ  
ユ」暗殺事件論議後トナルヘク土耳其古側ハ佛土間「パクト」  
締結ヲ希望シ居ルモ佛國ハ進ミ居ラスト内話セリ此ノ點ニ  
關シ廿八日ノ「ジュールナル」ハ佛國ハ伊國ニ對シ氣兼有リ  
又獨、波ノ二國間協定主義ニ反對シ地方協定主義ヲ主張シ  
居ル建前上贊成シ得スト論シ居レリ  
在歐各大使、壽府、「チエ」、波蘭、羅馬尼、「ラトビヤ」  
ヘ暗送セリ

(付記)

ベルリン 12月7日後2時10分發  
參謀本部 12月8日午前0時20分着

#### 第四五號

獨國々防省ノ現在迄ニ得タル情報ヲ聽クニ十一月中旬以來佛蘇間ニ或種ノ協定開始セラレツツアルモ世上傳フルカ如キ攻守同盟ノ性質ヲ有セス蘇邦ハ獨佛開戰ノ場合佛國ニ對シ飛行機毒瓦斯等兵器ヲ提供シ佛國ハ蘇邦ニ對スル借款其他經濟的支援ヲ與フルヲ主ナル條件トシ特ニ佛國ハ此經濟的支援ニ依リ將來ニ於ケル獨蘇ノ經濟的接近ヲ防止セント企圖シアルカ如シ本協定ニ佛國カ日蘇開戰ノ場合ノ義務ヲ除キアルコトニ關シテハ獨國々防省ノ得タル情報、新聞情報トモニ一致シアリ

141 昭和9年12月18日 広田外務大臣より  
在仏國佐藤大使宛(電報)

#### 仏ソ相互援助条約交渉の進捗状況につき調査 方訓令

本省 12月18日後6時30分發

#### 第三〇五號

貴電第五七五號(四)ニ關シ佛蘇議定書調印說ニ付テハ屢次御電報ノ次第アルモ適當ノ機會ニ於テ佛國外務省側ニ真相御確メノ上電報相成度壽府ニ轉電アリタシ

## 四 日米外交關係\*

### 1 一般問題

142 昭和9年1月4日 在米國武富臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

#### 米國大統領の議會演説について

ワシントン 1月4日前發  
本省 1月4日後着

#### 第三號

三日第七十三議會「レギュラー、セッション」ノ開會ニ當リ大統領ハ下院ニ赴キ上下兩院議員ノ參集セル前ニ於テ「メッセージ」(原文郵送)ヲ朗讀シタリ尙今回ノ會期ハ經濟復興關係ノ諸立法實施後最初ノ議會ナル爲諸施設ニ關シ相當ノ論議アルヘキモ民主共和兩黨ノ黨勢ニ變化無ク又十一月ノ改選ヲ控ヘ居ル關係モアリ多分五月初旬迄ニハ終了スヘシトノ觀測今日ノ處一般ニ行ハレ居レリ  
右「メッセージ」ハ先ツ國內經濟回復問題ヨリ説キ起シ政

府信用維持法ノ效果ヨリ内外ニ於ケル金銀購入ノ續行ニ及ヒ外國爲替安定問題ニ付テハ慎重考慮ヲ遂ケタルモ或ル諸國ニ於テ國內事情等ノ爲差當ツテ恒久的且全世界的貨幣安定ノ商議ニ入ルヲ得サルコト判明セリト述ヘタル後銀行開業狀況産業復興法及農業救濟法ノ實施概況ニ及ヒタルカ次テ國際關係ニ關シテハ必スシモ全部樂觀シ難シト前置シテ先ツ「モンテヴィデオ」汎米會議カ大ナル成功ヲ收メ得タルモ軍備及通商障礙問題ニ關シテハ世界ノ或ル部分ニ於テハ侵略ヲ恐レ多額ノ軍事費ヲ費シ又保護關稅障壁ヲ依然築キ居ル爲平和又ハ通商上ノ協定締結ハ著シク阻害セラレ居レリト論シ米國ハ歐洲ノ政治的協定ニ加ハルコトヲ得サルモ世界的基礎ニ立チ實際的方法ニ依リ軍縮及通商障壁低下ニ協力スヘキヲ明カニセリト斷シ次テ戰債問題ニ觸レ芬蘭一國ノミ完全ナル支拂ヲ爲セルニ過キサ次第ヲ述ヘ最後ニ再ヒ國內問題ニ立歸リ各種ノ犯罪狀況ニ觸レ其ノ彈壓ノ必要ヲ説キ禁酒法ノ撤廢ハ犯罪撲滅ニ資スヘシトシ更ニ失